

# 佐賀大学農学部

—自己点検・評価報告書—  
〔平成18.19年度〕

2009年3月



## 農学部自己点検・評価（平成 18・19 年度）について

農学部における自己点検・評価は、昭和 62 年（1987 年）から平成 17 年（2005 年）までの間は、ほぼ 4 年間隔で 6 回にわたって「教育研究業績総覧」として実施・刊行されてきた。平成 18 年（2006 年）11 月には、平成 16・17 年度の教育・研究活動について、それまでに実施してきた教育研究業績総覧と異なり、大学評価・学位授与機構が示す認証評価項目を参考とした自己点検・評価を実施し、外部評価委員からの評価を仰ぎながら、「地域と国際貢献を目指す佐賀大学農学部—自己点検・評価報告書—（平成 16・17 年度）」を刊行した。

平成 16 年 4 月の国立大学法人設置に伴い、大学の認証評価が義務付けられ、平成 20 年度には、大学評価・学位授与機構による第一回目の法人評価が実施された。それに伴い認証評価の最終様式が確定され、国立大学法人が実施すべき自己点検・評価の要点が明確になった。

以上のような経緯を踏まえ、ここに佐賀大学農学部における平成 18・19 年度の自己点検・評価を実施し、外部評価委員の評価を仰ぐこととした。従って、ここに取りまとめた自己点検・評価報告書の様式は確定した認証評価の様式に従うこととした。また、根拠資料については、大半が佐賀大学教員活動データベースにより参照できることから報告書の中には含めていない。以上のようなことから、今回の自己点検・評価報告書の様式及びその構成等は、従来と異なっているため幾分違和感のあるものとなっている。

外部評価委員の先生方には、ご多忙の中で貴重なお時間を頂き、佐賀大学農学部における教育・研究についてご指導・ご教示頂けることに深く感謝している。

平成 21 年 3 月

佐賀大学農学部長

野 瀬 昭 博



## 目 次

### (農学部)

1. 大学の目的	1
2. 教育研究組織（実施体制）	4
3. 教員及び教育支援者	10
4. 学生の受入	18
5. 教育内容及び方法	29
6. 教育の成果	41
7. 学生支援等	47
8. 施設・設備	56
9. 教育の質の向上及び改善のためのシステム	63
10. 管理運営	70
11. 教育サービス	80

### (農学研究科)

1. 大学の目的	85
2. 教育研究組織（実施体制）	88
3. 教員及び教育支援者	93
4. 学生の受入	103
5. 教育内容及び方法	111
6. 教育の成果	125
7. 学生支援等	133
8. 施設・設備	142
9. 教育の質の向上及び改善のためのシステム	145
10. 管理運営	152



## 1 大学の目的

観点1-1-①：大学の目的（学部、学科又は課程の目的を含む。）が、明確に定められ、その目的が、学校教育法第83条に規定された、大学一般に求められる目的から外れるものでないか。

## 農学部 1-1-①

(観点に係る状況)

農学部は、その目的を定め、農学部規則に明記している。(資料1-1-1-1)。

### 農学部の目的

本学部は、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とする。
---

(出典：佐賀大学農学部規則（第1条の2）)

また、農学部を構成する3学科の目的を定め、農学部規則に明記している。

### 農学部3学科の目的

学 科	目 的
応用生物科学科	生物の特性を理解し、生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を育成すること。
生物環境科学科	<b>【生物環境保全学コース】</b> 地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して、社会に貢献できる人材を育成すること。 <b>【資源循環生産学コース】</b> 生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成すること。 <b>【地域社会開発学コース】</b> フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成すること。
生命機能科学科	科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成すること。

(出典：佐賀大学農学部規則（第1条の3）)

(分析結果とその根拠理由)

農学部及び3学科の目的は明確に定められており、この目的は、学校教育法第83条に規定された大学一般の目的に合致している。

資料1-1-1-1 佐賀大学農学部規則
---------------------

観点1-2-①： 目的が、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているとともに、社会に広く公表されているか。

## 農学部 1-2-①

（観点に係る状況）

農学部の目的や具体的な活動方針は、佐賀大学案内（資料1-2-1-1）、佐賀大学農学部・農学研究科概要（資料1-2-1-2）、農学部「履修の手引」（資料1-2-1-3）等に記すとともに、全教職員にこれらの資料を配布することにより、周知している。学生に対しては、農学部の目的や具体的な活動方針を記載している学生便覧（資料1-2-1-4）と農学部「履修の手引」を農学部ガイダンスの際に配布することにより、周知している。社会に対しては、ホームページや佐賀大学農学部自己点検評価報告書等に記載することにより、公表している（資料1-2-1-5, 1-2-1-6）。学部改組のリーフレット（資料1-2-1-8）等にも農学部の目的を記載し、佐賀大学案内とともにオープンキャンパスや各高等学校で行われる入学試験説明会の折に、参加者に配布している。

（分析結果とその根拠理由）

農学部の全教職員及び全学生にこれらの資料を配布することにより、目的は大学の構成員（教職員及び学生）に周知されている。また、本学部のホームページ、自己点検評価報告書、学部案内リーフレット等に目的を記載することにより、社会に対しても広く公表されている。

- |           |   |
|-----------|---|
| 資料1-2-1-1 | 佐賀大学案内（平成19年度 p35～40）   |
| 資料1-2-1-2 | 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成18年度 p7～12, 平成19年度 p7～12）  |
| 資料1-2-1-3 | 農学部「履修の手引」（平成18年度 p4～18, 平成19年度 p4～18）  |
| 資料1-2-1-4 | 学生便覧（平成18年度 p252～269, 平成19年度 p262～280）  |
| 資料1-2-1-5 | 佐賀大学農学部ホームページ <a href="http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html">http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html</a> |
| 資料1-2-1-6 | 佐賀大学農学部「自己点検・評価報告書」〔平成16, 17年度〕 p6～8  |
| 資料1-2-1-7 | 佐賀大学農学部が変わります（学科改組案内リーフレット）   |

## 2 教育研究組織（実施体制）

観点2-1-①： 学部及びその学科の構成（学部，学科以外の基本的組織を設置している場合には，その構成）が，学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

## 農学部 2-1-①

（観点に係る状況）

農学部は，総合科学である農学教育を実践するための学科を構成し，教育と研究を担当している。農学部を構成する学科，講座，教育研究分野は，以下のとおりである。

教育研究組織

学科	講座	教育研究分野
応用生物科学科	生物資源開発学	熱帯作物改良学，動物資源開発学，植物工学，植物代謝解析学， 蔬菜花卉園芸学，果樹園芸学，植物遺伝育種学
	生物資源制御学	植物病制御学，植物ウイルス病制御学，線虫学，昆虫学， システム生態学，動物行動生態学
生物環境科学科	生物環境保全学	地圏環境学，水環境工学，浅海干潟環境学，環境地盤学， 生物環境学
	資源循環生産学	農業生産機械学，生産システム情報学，施設農業生産学， 作物生態生理学，資源循環フィールド科学
	地域社会開発学	地域ビジネス開発学，地域資源学，人類生態学
生命機能科学科	生命化学	生化学，機能高分子化学，応用微生物学
	食糧科学	生物資源利用学，食品化学，食糧安全学，食品栄養化学

（出典：佐賀大学農学部「履修の手引」）

農学部の教員は，講座内の教育研究分野（計33分野）に所属し，教育研究目的を実現するための教育研究活動を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

学科改組後の農学部の学科は，教育研究目的をさらに達成するための適切な構成になっている。

資料1-2-1-1	佐賀大学案内（平成19年度 p40，平成20年度 p54）
資料1-2-1-2	佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成18年度 p4，平成19年度 p4）
資料1-2-1-3	履修の手引（平成18年度 p3，平成19年度 p3）
資料1-2-1-4	学生便覧（平成18年度 p9，平成19年度 p9）
資料1-2-1-5	佐賀大学農学部ホームページ <a href="http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html">http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html</a>
資料1-2-1-6	佐賀大学農学部－自己点検・評価報告書－〔平成16，17年度〕 p2-4
資料1-2-1-7	佐賀大学農学部が変わります（学部改組案内リーフレット）

観点2-1-②： 教養教育の体制が適切に整備され、機能しているか。

**農学部 2-1-②**

(観点に係る状況)

教養教育は、全学部の教員が担当する教養教育運営機構への全学出動方式で運営されている。農学部教員は、教養教育科目（主題科目）を担当している。一部の教員は、教養教育科目（共通基礎教育科目（情報処理科目））を担当している（資料2-1-2-1）。

(分析結果とその根拠理由)

農学部教員は、教養教育科目（主題科目、共通基礎教育科目（情報処理科目））を担当しており、全学出動方式による教養教育実施体制が適切に整備され、機能している。

資料2-1-2-1 教養教育科目担当状況一覧（農学部教員）
-------------------------------

観点2-1-⑤：大学の教育研究に必要な附属施設、センター等が、教育研究の目的を達成する上で適切に機能しているか。

(観点に係る状況)

全学的な附属施設、センター等として、産学官連携推進機構、アドミッションセンター、キャリアセンター、教養教育運営機構、附属図書館、保健管理センター、海洋エネルギー研究センター、総合分析実験センター、総合情報基盤センター、留学生センター、低平地研究センター、海浜台地生物環境研究センター、シンクロトロン光応用研究センター、高等教育開発センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、地域学歴史文化研究センター、有明海総合研究プロジェクトを設置している。これらの附属施設、センターは、全学部に関わる教育研究を支えている。農学部は、附属施設、センター等と連携を保ちながら、学部教育に及び研究に活用している。

農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター（教員4人）は、主に農学部の学生を対象としたフィールド科学としての農学教育の実践と研究を担っているが、他学部の学生（平成18年度：文化教育学部1人、経済学部3人、理工学部7人、平成19年度：文化教育学部18人、経済学部37人、理工学部52人、医学部5人）に対しても農業に関する基本的かつ実践的な教育を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

全学的な附属施設、センターはもとより、農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターは、農学部と緊密に連携しており、農学部における教育と研究を達成する上で適切に機能している。

観点2-2-①： 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っているか。

**農学部 2-2-①**

(観点に係る状況)

農学部の教授会規程(資料 2-2-1-1)に基づき、教員人事、教育課程の編成、学生の入学、卒業、修了、学位授与など学士課程の教育活動に係る重要事項を教授会で審議している。教授会は、平成18年度以前は、教授、助教授、講師で構成し、平成19年度以降は、教授、准教授、講師、助教で構成している。農学部の教育活動との関係が深い、海浜台地生物環境研究センターと総合分析実験センターの教員は、オブザーバーとして教授会に出席している。教授会は、毎月1回定例的に、また、必要に応じて臨時に開催している。

(分析結果とその根拠理由)

教授会は、定例又は臨時に開催され、教育活動に係る重要事項を滞りなく審議・決定するための必要な活動を行っている。

資料 2-2-1-1 農学部教授会規程
---------------------

観点2-2-②： 教育課程や教育方法等を検討する教務委員会等の組織が、適切な構成となっているか。また、必要な回数の会議を開催し、実質的な検討が行われているか。

## 農学部 2-2-②

(観点に係る状況)

農学部教育委員会規程(資料2-2-2-1)に基づき、農学部教育委員会が組織され、学部の教育課程の編成や教育方法等に係る重要事項を検討している。本委員会は、農学部全体ならびに各学科に係る事項について検討するため、各学科・教育コースから選出された教員で構成している。全学的な状況を踏まえて、農学部全体の教育方法等を検討する機能を高めるために、平成20年4月に、副学部長(教育担当)が委員長を担当する組織に委員会構成を改めた。本委員会は、毎月1回定例的に、また、必要に応じて臨時に開催している。委員会で検討された事項は、学科会議等で報告され、必要に応じて、教授会で審議・決定される。

教育委員会の検討事例：①3年次編入学生の既習得単位認定、②教育実習参加資格認定、③外国語能力試験の単位認定、④後援会開催時における個人面談実施要領、⑤学業成績通知書の送付について、⑥非常勤講師任用計画の策定、⑦教育実習の単位認定など(資料2-2-2-2)。

(分析結果とその根拠理由)

農学部教育委員会は、副学部長(教育担当)が委員長を務め、各学科から選出される教員で構成されており、教育について検討するための適切な構成となっている。本委員会は、学年暦に即して、必要な回数(年10回以上)開催している。本委員会は、学部・学科・教育コース等の教育課程や教育方法等について実質的な検討を行っており、十分に機能している。

資料2-2-2-1 農学部教育委員会規程 資料2-2-2-2 農学部教育委員会議事録(平成19年度)
---

### 3 教員及び教育支援者

観点3-1-①： 教員組織編制のための基本的方針を有しており、それに基づいて教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制が確保され、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされているか。

#### 農学部 3-1-①

(観点に係る状況)

教員組織編制の基本的方針は、学部長の諮問を受けて、農学部基本計画委員会が検討し、提案している(資料3-1-1-1)。教員の配置は、学部長の諮問を受けて、農学部人事委員会で検討し、提案している(資料3-1-1-2)。教員は、学士課程の教育研究の目的・目標を達成するために、3学科7講座に、バランスよく配置されている(資料3-1-1-3)。研究分野の改廃等は、関係講座から発議され、人事委員会及び基本計画委員会における検討を経て、教授会で審議・決定する。

(分析結果とその根拠理由)

農学部は、その教育目的を達成するための教員組織編制(学科・講座の構成)の基本的方針の下に、教員が適切に配置されている。教員は、学科、講座及び教育研究分野に所属し、それぞれの役割分担の下で他の教員との連携を保ちながら、各所属及び教員に係る責任の下に教育と研究を担当している(資料3-1-1-4 学科長選考規定)。

資料3-1-1-1 農学部基本計画委員会規程
資料3-1-1-2 農学部人事委員会内規
資料3-1-1-3 仮定定員現員表(平成18, 19年度)
資料3-1-1-4 学科長規程

観点3-1-②： 学士課程において、教育課程を遂行するために必要な教員が確保されているか。また、教育上主要と認める授業科目には、専任の教授又は准教授を配置しているか。

### 農学部 3-1-②

(観点に係る状況)

農学部の教育課程を遂行するための専任教員（平成19年5月現在で54人）が確保されている（表）。教育上必要な授業科目の担当教員として、専任教員（教授、准教授）を配置している。学部教育の一部は、講師と助教が担当している。

農学部の教員配置（平成18年5月1日現在）

学 科	教授	准教授	講師	助教	非常勤講師		合計
					学外	学内	
応用生物科学科	10	4	0	1	2	0	17
生物環境科学科	10	10	2	1	4	8	35
生命機能科学科	6	4	1	1	2	6	20
資源循環フィールド科学 教育研究センター（注）	1	2	0	1	0	0	4

（注）資源循環フィールド科学教育研究センターの教員は、教育組織である生物環境科学科に所属。

農学部の教員配置（平成19年5月1日現在）

学 科	教授	准教授	講師	助教	非常勤講師		合計
					学外	学内	
応用生物科学科	10	4	0	1	1	0	16
生物環境科学科	10	10	2	1	2	6	31
生命機能科学科	6	4	1	1	2	4	18
資源循環フィールド科学 教育研究センター（注）	1	2	0	1	0	0	4

（注）資源循環フィールド科学教育研究センターの教員は、教育組織である生物環境科学科に所属。

上表の専任教員に加えて、農学部における教育研究との関連が深い学内共同教育研究施設（海浜台地生物環境研究センター、総合分析実験センター）の教員（計6人）が、それぞれの専門を活かした授業科目を担当している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の教育課程を遂行するための教員は、必要数確保されている。教育上主要な授業科目は、専任の教授又は准教授を配置し、その他の授業科目は、専任の教授・准教授・講師・助教が分担・協力して担っている。

観点3-1-⑤： 大学の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられているか。

#### 農学部 3-1-⑤

(観点に係る状況)

教員組織の活性化を図るために、ジェンダーバランス及び外国人教員に配慮した教員選考規程を整備している(資料3-1-5-1)。本規程に基づいて、国内外に教員公募要領を公表し、完全公募制により、優秀な教員の確保と流動性の向上に努めている(資料3-1-5-2)。教育研究の活性化及び教育研究水準の維持向上を図るために、教員の年齢構成に配慮している(表4)。

表4. 農学部教員の年齢構成(平成19年5月現在)

職	年齢				
	30歳未満	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上
教授	0	0	1	15	9
准教授	0	3	14	3	2
講師	0	1	2(1)	0	0
助教	0	5(1)	0	0	0

備考：カッコ内は女性教員数(内数)を示す。

学会賞を受賞するなど勤務成績が優秀な教員は、特別昇給制度を利用して、学部長推薦により昇給させている(資料3-1-5-3)。

(分析結果とその根拠理由)

教員採用及び昇格の方針に基づいて人事を行うことにより、また、特別昇給制度などを活用するなど、教員組織の活動の活性化に必要な措置が講じられている。

資料3-1-5-1 佐賀大学教員選考規程

資料3-1-5-2 農学部教員候補者の推薦依頼に関する申し合わせ

資料3-1-5-4 教育職(一)の適用を受ける職員の特別給与について(学長依頼文)

観点3-2-①： 教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。特に、学士課程においては、教育上の指導能力の評価、また大学院課程においては、教育研究上の指導能力の評価が行われているか。

### 農学部 3-2-①

(観点に係る状況)

教育研究水準を高く維持するために、佐賀大学教員選考基準(資料3-2-1-1)に基づく農学部教員選考規程(資料3-1-5-1)を制定し、この規程に基づいて教員の採用及び昇格を行っている。採用及び昇格候補者の選考は、教授会で選出される教員5人で構成される教員選考委員会が担当し、学士課程における教育上の指導能力の評価と、教授会における審議に基づいて決定している(資料3-2-1-3)。学部教育を担当する教員を採用及び昇格を行うために、厳格な書類審査(履歴書、研究業績目録、研究業績説明書等)を実施している。また、教員採用の最終段階で、必要に応じて、候補者にプレゼンテーションを求め、授業担当能力を測っている。

(分析結果とその根拠理由)

教員選考基準は明確に定められ、教育選考は、教育上の指導能力と相応の教育上の評価に基づいて実施している。このことにより、教員の採用及び昇格は、適切に運用がなされている。

資料3-2-1-1 佐賀大学教員選考基準
資料3-1-5-1 農学部教員選考規程
資料3-2-1-3 農学部教員候補者の推薦依頼に関する申し合わせ

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

### 農学部 3-2-②

(観点に係る状況)

農学部は、平成5年4月に農学部自己点検・評価委員会を設置し、平成6年からほぼ4年ごとに自己点検評価を実施している。平成14年4月からは、農学部評価委員会が、教育及び研究活動等に関する評価を実施している(資料3-2-2-1)。教員の教育・研究業績、社会貢献、国際貢献、学内運営に関する活動、研究費の獲得状況等をまとめた佐賀大学農学部教員教育研究業績総覧は、教員の教育活動を定期的に評価するためのデータベースとして機能している(資料3-2-2-2)。平成16年度に、農学部個人評価に関する実施要項を策定し、以後、教員についての個人評価を実施している(資料3-2-2-3, 3-2-2-4, 3-2-2-5)。評価の結果は、教員へ通知され、教育活動の改善に利用されている。また、学生による授業評価の結果は、教育改善に利用されている(資料3-2-2-6)。

(分析結果とその根拠理由)

農学部評価委員会が設置され、教員の教育活動に関する適切かつ定期的な評価が実施されており、その結果把握された事項に対する適切な取組として学部長から各教員へ評価結果を伝えている。また、学生による授業評価と授業改善を、大学教育委員会と連携して実施している。

- |           |                                |
|-----------|--------------------------------|
| 資料3-2-2-1 | 農学部評価委員会規程                     |
| 資料3-2-2-2 | 佐賀大学農学部教員教育研究業績総覧(2006年3月)     |
| 資料3-2-2-3 | 佐賀大学農学部における教員の個人評価に関する実施基準(試行) |
| 資料3-2-2-4 | 農学部教員個人評価実施要項(試行)              |
| 資料3-2-2-5 | 教員個人評価報告書(平成18, 19年度)          |
| 資料3-2-2-6 | 授業評価と改善に関する実施報告書(平成19年度)       |

観点3-3-①: 教育の目的を達成するための基礎として、教育内容等と関連する研究活動が行われているか。

**農学部 3-3-①**

(観点に係る状況)

多様な学問領域を包含する総合科学としての農学教育の目的を達成するために、農学部教員は、それぞれの専門に立脚した研究を活発に推進している(資料3-2-2-2)。研究成果は、教育の現場(授業)で紹介され、受講学生の知的関心を引き出している。

教員の研究活動と授業科目との関連事例

学 科	教員の研究活動分野	授業科目
応用生物科学科	①マングローブの炭酸ガス固定能力に関する研究 ②ダイズ種子脂肪酸組成の改良に関する研究 ③アリとの相互作用に関する研究	熱帯有用植物学 植物育種学 システム生態学
生物環境科学科	①水耕葉菜類への無機元素導入によるトレーサビリティシステムの構築 ②化学物質による環境汚染に関する研究 ③干潟の環境と機能に関する研究	植物栄養学 環境化学 干潟生態環境学
生命機能科学科	①機能性食品に関する研究 ②青果物のポリフェノール酸化酵素に関する研究 ③キチン質分解酵素の構造と機能に関する研究	栄養化学 食糧流通貯蔵学 生物化学

教員報告様式データ(平成19年度)より抜粋作成

(分析結果とその根拠理由)

教育目的を達成するための基礎となる研究は、科学研究費等の競争的資金の獲得状況等に示されているとおり活発になされ、教育に活用されている。

観点3-4-①： 大学において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。また、TA等の教育補助者の活用が図られているか。

**農学部 3-4-①**

(観点に係る状況)

教育課程の展開を事務の面から支援する学務部教務課農学部教務係に、職員3人を配置している(資料3-4-1-1)。技術職員は、農学部4人、附属資源循環フィールド科学教育研究センターに5人配置している。技術職員は、学生実験・実習、資源循環フィールド科学実習・演習等の授業を支援し、教育支援者として重要な役割を果たしている(資料3-4-1-2)。大学院修士課程及び博士課程の大学院生がTAに採用され、実験、実習、演習等の教育補助業務を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

学務部教務課職員と農学部技術職員は、教育支援者として適切に配置され、機能している。また、実験、実習、演習等の教育補助業務のためにTAが活用され、教員と学生をつなぐパイプ役として、重要な役割を果たしている。

TAの活用状況(平成18年度)農学部

項目	教育補助項目					
	実験	実習	演習	講義	卒業研究	合計
TA数	109	32	50	36	69	296
科目数	15	8	16	13	21	73

TAの活用状況(平成19年度)農学部

項目	教育補助項目					
	実験	実習	演習	講義	卒業研究	合計
TA数	82	18	47	22	54	223
科目数	17	7	12	12	22	70

資料3-4-1-1 学務部職員名簿  
資料3-4-1-2 事務職員現員表(平成19年度)

#### 4 学生の受入

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか。

#### 農学部 4-1-①

（観点に係る状況）

農学部の教育目的を達成するため、アドミッション・ポリシーを明確に定め、ホームページ等を通じて、広く公表している。

#### 農学部のアドミッション・ポリシー

##### 農学部アドミッション・ポリシー

##### 農学部

##### <教育目的>

今、私たちが生きる21世紀は、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会への大転換が求められています。このような時代背景のなか、日本有数の食料生産基地である佐賀平野に立地する佐賀大学農学部は、農学という学問が、理系から文系にわたり、基礎から応用に及ぶ総合科学であることを踏まえ、「食料」、「生命」、「環境」、「情報」、「エネルギー」、「地域社会」をキーワードとした多様で重要な課題を解決していこうとしています。そのために、創造性豊かな専門職業人を育て、国内はもとより、アジアをはじめとする世界に貢献します。これらのことから、農学部は、個性とバイタリティーにあふれ、基礎学力を有する人を歓迎します。

##### 応用生物科学科

##### <教育の目的・目標・方針>

本学科は、ウイルス、糸状菌、線虫、昆虫、植物（作物）、そして哺乳動物に及ぶ多様な生物を材料として、その生命現象及び諸特性の解明、遺伝子工学等の最新技術を応用した有用生物資源の開発・利用並びに環境にも配慮した、その保護に関する教育を行います。

これらの教育を通じて、人口問題、食糧問題、環境問題及びエネルギー問題等の解決に寄与できる、幅広い基礎知識を有し、総合的な問題解決能力を有する人材の育成を目標とします。

##### <求める学生像>

- 1 本学科の教育研究の目的と内容（多様な動植物の生理生態的特性の解明、バイオテクノロジーを用いた有用生物資源の開発・利用、有用動植物を加害する病害虫の制御等）についての理解と関心がある人
- 2 本学科の教育研究の内容を理解するための基礎となる授業科目（生物、化学、数学、英語、国語等）を修得している人
- 3 問題解決に向けて、粘り強く自己研鑽に努める熱意と実行力がある人
- 4 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

##### 生物環境科学科

##### <教育の目的・目標・方針>

本学科は、環境保全及び農業における資源・エネルギー等の課題について、幅広い視野と基礎知識を持ち、高い問題解決能力を持つ技術者・研究者・指導者を育成することを目標とします。

本学科は、次の3コースを有しています。

生物環境保全学コースでは、地球、生物、人の調和を図り、環境への負荷の少ない生物生産環境の保全・創出と豊かな生活環境の創造に関する教育を行います。

資源循環生産学コースでは、農業における資源、エネルギー、環境等の課題に取り組み、高度な生物生産システムに関する教育を行います。

地域社会開発学コースでは、持続的な循環型社会の構築を目指し、国際的視野で民族、地域資源、環境社会、農林水産資源及びビジネス開発に関する教育を行います。

<求める学生像>

- 1 自然環境、社会環境及び生物生産環境の保全と修復に興味を持つ人
- 2 持続的な農業を可能にする新たな生物生産システム及び経済社会システムの創造に意欲がある人
- 3 生物産業及び環境科学の分野において、研究者、技術者として国際的な視野で活躍する意欲がある人

生命機能科学科

<教育の目的・目標・方針>

バイオサイエンス、食品、バイオマス、環境等の分野における重要な問題の解決は、社会的急務となっています。本学科は、これらの分野における科学的な知識と分析技術を身に付け、総合的な問題把握とその解決能力を有し、社会に貢献できる応用力の高い技術者、研究者及び指導者の育成を目標とします。

そのために、本学科は、生化学及び分子生物学を基礎として、微生物からヒトにわたる幅広い生物の生命現象のしくみや機能の解明を行うとともに、それらを応用した食品機能の追求と開発、食品の安全性、バイオマスの利用等に関する教育を行います。

<求める学生像>

- 1 生体における遺伝子の発現や物質代謝とそれらの調節機構を分子レベルで理解するライフサイエンス、食品の生体調節機能、栄養機能や安全性等に興味を持っている人
- 2 将来、本学科で学んだ知識や技術を社会で活かそうと考えている人
- 3 化学的手法を多用しますので、化学はもとより、生物、物理、数学等の理系科目が得意で、英語、国語、社会等の基礎学力を十分身に付けている人

<入学者選抜の基本方針（入学、選抜、選抜基準等）>

農学部が求める学生像にふさわしい学生を選抜するために、一般選抜、推薦入試、3年次編入学試験等の多様な入学試験を実施します。

#### 1 一般選抜

高等学校等での学習の達成度を評価するために、大学入試センター試験及び個別試験を課します。大学入試センター試験では、5教科7科目を課し、数学及び理科の学力を重視します。個別学力検査では、前期日程で数学及び英語、後期日程で数学の学力試験を課し、入学後に必要な基礎学力を測ります。

#### 2 推薦入試

第一次選考及び第二次選考により、合格者を決定します。第一次選考では、書類審査（調査書、推薦書、作文

等)を行い、高校における学習状況等を評価します。第一次選考の合格者について第二次選考を行います。第二次選考では、思考的な論述力と勉学意欲を図るために、小論文及び面接(口頭試問を含む。)を課します。

### 3 3年次編入学試験

高等専門学校、短期大学、大学の卒業者と卒業見込みの者、大学に2年以上在学し所定の単位を修得した者等を対象とします。試験科目は、英語、口頭試問及び面接です。

### 4 帰国子女特別選抜

小論文、口頭試問及び面接を課します。

### 5 私費外国人留学生選抜

独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」、TOEFL及び面接を課します。

(出典：佐賀大学アドミッション・センターホームページ)

平成18年度の学科改組後は、一般選抜、私費外国人留学生選抜、帰国子女特別選抜等の学生募集要項に、学部及び各学科のアドミッション・ポリシーを明記している(資料4-1-1-1)。学生募集要項等の印刷物は、高校、短大、高等専門学校、本学志願者、文部科学省、本学教職員、事務局各課等に配布することにより、周知している(資料4-1-1-2)。

毎年実施している大学説明会(オープンキャンパス)(資料4-1-1-3)、ジョイントセミナー(高校訪問)(資料4-1-1-4)、高校関係者との懇談会(資料4-1-1-5)、留学生フェア・進学説明会等において、アドミッション・ポリシー、教育研究の特色等について説明し、学内外の関係者への周知を図っている。

(分析結果とその根拠理由)

アドミッション・ポリシーが明確に定められ、ホームページ、農学部紹介パンフレット等を通じて、学内外に公表、周知している。

資料4-1-1-1 佐賀大学学生募集要項(平成19年度、20年度)

資料4-1-1-2 学生募集要項配布先一覧(平成18、19年度)

資料4-1-1-3 大学説明会、高等学校・学部別参加申込者数一覧(平成18、19年度)

資料4-1-1-4 ジョイントセミナー実施高校・出席者一覧(平成18、19年度)

資料4-1-1-5 高校関係者との懇談会の実施状況(平成18、19年度)

観点4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。

**農学部 4-2-①**

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに合致する学生を求めるために、多様な選抜試験を実施し、学力、思考力、勉強意欲、独創性などを測ることによって、入学者を決定している。

学部1年次生は、入学定員の約80%を一般選抜により受け入れている。一般選抜は、前期日程を重視し、農学部を目指す入学志願者を積極的に受け入れている（資料4-2-1-1）。前期日程及び後期日程ともに、大学入試センター試験を課している。個別試験は、前期日程試験では英語と数学を、後期日程では数学を課している。大学入試センター試験と個別試験の結果を総合して、合格者を決定している。

入学定員の約20%を推薦入試により受け入れている。推薦入試は、大学入試センター試験を免除し、推薦書、調査書、小論文及び面接に基づいて合格者を決めている（資料4-1-1-1）。

農学部学生の選抜・受け入れ状況

学 科	年度	入学定員	入学者			
			合計	推薦	前期	後期
生物生産学科	16	65	68	16	34	18
	17	65	74	17	34	23
応用生物科学科	16	80	87	16	50	21
	17	80	90	16	49	25
応用生物科学科	18	45	51	11	29	11
	19	45	51	10	31	10
	20	45	48	10	29	9
生物環境科学科	18	60	64	18	38	8
	19	60	60	16	39	5
	20	60	73	16	45	12
生命機能科学科	18	40	42	6	33	3
	19	40	42	6	32	4
	20	40	44	6	35	3

備考：入学定員は、学科改組前（2学科）も改組後（3学科）も145人である。

「入学試験に関する統計」より作成

（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーに基づいて、多様かつ適切な入試を実施している。これらの入学者選抜方法は、本学部の目的に合致する学生の受入れ方法として、実質的に機能している。

資料4-2-1-1 入学試験に関する統計（平成16年度～20年度）

[http://www.sao.saga-u.ac.jp/New\\_wwwout/Nyusi\\_Tokei/Tokei\\_Top\\_Menu.html](http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Nyusi_Tokei/Tokei_Top_Menu.html)

資料 4-1-1-1 佐賀大学学生募集要項（平成 19, 20 年度）

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）において、留学生，社会人，編入学生の受入等に関する基本方針を示している場合には、これに応じた適切な対応が講じられているか。

#### 農学部 4-2-②

（観点に係る状況）

外国人留学生については、英文のアドミッション・ポリシーを募集要項に記載し、特別選抜を実施している。大学入試センター試験を免除し、成績証明書，日本留学試験，TOEFL，面接の総合点に基づいて合格者を決定している。

3年次編入学試験（入学定員10人）は、短期大学，高等専門学校等の卒業見込み者等を対象として実施している。合格者は、推薦書，調査書（成績証明書），学力試験（英語，数学又は生物）及び面接の総合点に基づいて決定している（資料4-2-2-1）。

帰国子女については、帰国子女特別選抜枠を設けている。大学入試センター試験を免除し、推薦書，調査書，小論文及び面接の総合点に基づいて合格者を決定している（資料4-1-1-1 資料4-2-2-2）。

社会人受入れは、農学部では実施していない。

（分析結果とその根拠理由）

留学生，編入学生，帰国子女に係る入学者選抜は、農学部の目的，アドミッション・ポリシーに沿って、適切に実施され、実質的に機能している。

資料4-2-2-1 佐賀大学編入学学生募集要項（平成19，20年度）

資料4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項（平成19，20年度）

資料4-2-2-2 推薦・帰国子女特別選抜学生募集要項（平成19，20年度）

観点4-2-③： 実際の入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

#### 農学部 4-2-③

(観点に係る状況)

農学部の入学者選抜は、佐賀大学の入学者選抜に係る規程に基づいて実施している(資料4-2-3-1)。

学長を委員長とする入学試験委員会(以下「入試委員会」という。)は、入学者選抜の実施及び本学における大学入試センター試験の実施に関する基本的事項と重要事項について審議している(資料4-1-1-1)。試験問題の作成は、入試委員会のもとに置かれた各試験科目の専門委員会が担当している。入学試験問題は、十分な教育研究経験を有する教員により作成されている。公正を期するため、入学試験問題作成に関わる情報は非公開としている。

入学試験の際には、入学試験実施本部及び各試験場本部が置かれ、学長が本部長を、各学部長が各試験場本部責任者(試験場責任者)を務める(資料4-2-3-2)。入学試験問題作成委員会委員長及び問題作成責任者も試験実施本部員に加わり、入学者選抜を遺漏なく実施するよう配慮している。

面接、口頭試問においては、試験教員を複数人で構成することにより、公正な合否判定が行えるように配慮している。合格候補者は、各学科、教授会における審議を経て決定している。

(分析結果とその根拠理由)

入学者選抜に係わる実施計画等の作成、試験問題の作成、試験の実施、試験の採点及び合格者の決定までの実施体制は、入試委員会を中心に構築されている。関係者間の連携が図られ、意思決定のプロセスと責任は明確かつ公正である。これらのことにより、入学者選抜は、適切な実施体制の下で、公正に実施されている。

資料4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項(平成19,20年度)

資料4-2-3-2 入学試験関係委員割振表(平成18,19年度)

観点4-2-④： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

#### 農学部 4-2-④

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに沿った入試が実施されているか否かについての検証は，主に，入試委員会の中に設置されている入学者選抜方法小委員会（以下「選抜方法小委員会」という。）が担当している。選抜方法小委員会は，入学者選抜方法に関する調査・研究を行うとともに，個別学力検査等の内容，在り方，改善方を検討している。また，大学進学情報の提供，入学者選抜に関する大学案内の編集及び広報活動に関する事項についても検討している（資料4-2-4-1）。

（分析結果とその根拠理由）

選抜方法小委員会が設置され，入学試験の結果や，高校・高専教員との意見交換等を踏まえ，また，入学者選抜に関する検証と調査研究に基づいて，改善がなされている。

資料4-2-4-1 平成19年度第1回入学者選抜方法小委員会議事要旨
------------------------------------

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

#### 農学部 4-3-①

(観点に係る状況)

過去5年間(平成16~20年)の平均入学定員超過率は、学部1年次入学の場合が1.10倍、編入学の場合が1.1倍である(資料4-1-1-1)。学科改組前と改組後の入学定員と在籍学生数は、以下のとおりである。

農学部入学定員と実入学者

学 科	年度	入学定員(a)	実入学者合計(b)	超過率(b/a)
生物生産学科	16	65	68	1.05
	17	65	74	1.14
応用生物科学科	16	80	87	1.09
	17	80	90	1.13
応用生物科学科	18	45	51	1.13
	19	45	51	1.13
	20	45	48	1.07
生物環境科学科	18	60	64	1.07
	19	60	60	1.00
	20	60	73	1.22
生命機能科学科	18	40	42	1.05
	19	40	42	1.05
	20	40	44	1.10

備考：入学定員は、学科改組前(2学科)も改組後(3学科)も145人である。

「入学試験に関する統計」[http://www.sao.saga-u.ac.jp/New\\_wwwout/Nyusi\\_Tokei/Tokei\\_Top\\_Menu.html](http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Nyusi_Tokei/Tokei_Top_Menu.html)より作成

農学部編入学定員と実入学者

年度	入学定員(a)	実入学者合計(b)	超過率(b/a)
16	10	11	1.10
17	10	12	1.20
18	10	8	0.80
19	10	12	1.20
20	10	12	1.20

農学部の入学定員と在籍学生数（平成 19 年度）

学科	入学定員	在籍学生数			
		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次以上
生物生産学科	65	—	—	75+4 編入	82+6 編入
応用生物科学科	80	—	—	85+8 編入	94+3 編入
応用生物科学科	45	51	51	—	—
生物環境科学科	60	61	63	—	—
生命機能科学科	40	42	43	—	—

備考：入学定員は、学科改組前（2 学科）も改組後（2 学科）も 145 人である。

（出典：佐賀大学入学者選抜要項ならびに教務情報システム学籍管理データ）

（分析結果とその根拠理由）

農学部の実入学者数は、入学定員を大幅に超過、又は下回っておらず、入学定員と実入学者の関係は適正である。

資料 4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項（平成 19, 20 年度）ならびに教務情報システム学籍管理データ

## 5 教育内容及び方法

<学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

**農学部** 5-1-①

(観点に係る状況)

農学部は、佐賀地域に立脚しながら、地球的規模で農学を考えることのできる、幅広い視野、高度な専門知識、理解力、実践力等を備えた国際性豊かな人材を育成することを目的としている。平成18年4月に2学科から3学科に改組してカリキュラムを一新し、教育課程の編成趣旨に沿った授業内容に改善した。

授業科目区分と農学部の卒業要件

学 科	教養教育科目								小 計	専門教育科目			小 計	合 計	
	大学 入 門 科 目	共通基礎教育科目						主題科目		専 門 基 礎 科 目	農 学 基 礎 科 目	専 門 科 目			
		外国語科目		健康・スポーツ 科目		情報処理 科目		分 野 別 主 題 科 目							共 通 主 題 科 目
		英 語	独語, 仏語, 中国語, 朝鮮語	講義・演習	実 習	講 義	演 習 I								
応用生物科学科	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126	
生物環境科学科	生物環境保全学コース	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126
	資源循環生産学コース	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126
	地域社会開発学コース	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126
生命機能科学科	2	4	4	2	2	2	1	20	37	8	6	75	89	126	

(出典：佐賀大学農学部「履修の手引」)

農学部の教育課程は、教養教育科目と専門教育科目で構成している。卒業するために必要な修得単位数（卒業要件という。）は、3学科（応用生物科学科、生物環境科学科、生命機能科学科）ともに126単位である（資料1-2-1-3）。内訳は、教養教育科目が37単位（大学入門科目が2単位、共通基礎教育科目が15単位、主題科目が20単位）、専門教育科目が89単位である。専門教育科目の内訳は、専門基礎科目が4単位（応用生物科学科、生物環境科学科）又は8単位（生命機能科学科）、農学基礎科目が6単位（3学科共通）、専門科目が79単位（応用生物科学科、生物環境科学科）又は75単位（生命機能科学科）である。

教養教育科目である大学入門科目、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報処理科目を必修とし、専門教育の基盤を形成できるようにしている。

専門教育科目については、専門基礎科目（数学、物理学、化学、生物学）を1年前学期に配置することにより、農学部における学修に必要な理数科目の基礎学力を養い、高校教育から大学における専門教育への移行がスムーズ

ズに行えるように配慮している。

農学部の中心的な授業科目（コア科目）として、農学基礎科目 5 科目を選定し、1, 2 年生向けに開講している。学生は、3 科目（6 単位）を選択履修（必修）することにより、農学の基本を修得する（資料 5-1-1-1）。

専門科目の必修科目及び選択必修科目（一覧表）

学科		専門基礎科目	農学基礎科目	専門科目
応用生物科学科		化学 生物学		植物生産学, 熱帯農業論, 遺伝学, 応用動物昆虫学, 生物統計学, 植物育種学, 植物病理学Ⅰ, フィールド科学基礎実習Ⅰ, 生物学実験, 応用化学実験, 果樹園芸学, 蔬菜園芸学, 応用生物学実験, 科学英語, 生物科学英語, 生物情報処理演習, 卒業研究
生物環境科学科	生物環境保全学コース	数学, 物理学 化学, 生物学 のうち2科目 4単位	作物生産学, 動物資源開発学, 土壌学, 生物化学, 食品流通学のうち 3科目6単位	生物環境保全学概説, 資源循環生産学概説, 地域社会開発学概説, 実験生物環境保全学Ⅰ・Ⅱ, 科学英語, 生物環境保全学演習, 卒業研究, (実験水気圏環境学, 実験地圏環境学, 実験生物環境学のうち1科目)
	資源環境生産学コース			生物環境保全学概説, 資源循環生産学概説, 地域社会開発学概説, 栽培技術論, 栽培環境制御学, 農業生産機械学, フィールド科学基礎実習Ⅰ・Ⅱ, 生物科学実験実習, 科学英語, 卒業研究
	地域社会開発学コース			生物環境保全学概説, 資源循環生産学概説, 地域社会開発学概説, 地域資源論, 人間開発論, 地域ビジネス開発論, フィールドワーク基礎演習, フィールド科学基礎実習Ⅰ, 科学英語, 卒業研究
生命機能科学科		数学 物理学 化学 生物学		物理化学, 有機化学, 分析化学, 化学実験Ⅰ, 生物有機化学, 生化学, 生物物理化学, 微生物学, 生命化学概説, 食糧科学概説, 食品衛生学, 栄養化学, 食品化学, 分子生物学, 生化学実験, 化学実験Ⅱ, 微生物学実験, 科学英語, 生物学基礎実験, 卒業研究

(出典：佐賀大学農学部「履修の手引」)

応用生物科学科では、専門9科目の講義、科学英語、生物科学英語、生物情報処理演習、フィールド科学基礎実習Ⅰ、生物学実験、応用生物学実験、応用化学実験、卒業研究を必修科目としている。3年前期の始めに行う分野分属の後には、各分野の教員が担当する選択科目や実験実習科目を選択、履修する。

生物環境科学科では、生物環境保全学、資源循環生産学、地域社会開発学の3コースを設けており、学生は、2年次前期から各コースに分属する。このため、カリキュラムはコースにより異なる。学科共通の必修科目は、各コースが開設する概説、科学英語、卒業研究である。生物環境保全学コースの必修科目は、実験生物環境保全学Ⅰ、Ⅱと生物環境保全学演習である。資源循環生物学コースの必修科目は、3つの講義科目、フィールド科学基礎実習Ⅰ、Ⅱならびに生物科学実験実習である。地域社会開発学コースの必修科目は、3つの講義科目、フィールドワーク基礎演習、フィールド科学基礎実習Ⅰである。これらの3コースの学生は、学生実験などを必修科目とするとともに、豊富な選択科目の中から履修科目を選ぶことにより、自主的に履修カリキュラムを作り上げる。

生命機能科学科は、13の講義科目、5つの実験実習科目、科学英語、卒業研究を必修科目としている。カリキュラムの基本的な部分を固定して、生命科学についての基本的な理解を深めさせることにより、有用生物の開発と生物資源の有効利用を図ることができる人材の養成を進めている。

(分析結果とその根拠理由)

農学部は、専門教育科目の中に共通の専門基礎科目を配置し、農学基礎科目（コア科目）を選択必修とするこ

とにより、スムーズに学習できるように工夫している。各学科、各コースは、その教育目的に合わせて、基礎から応用までの科目を履修できるように、各種の講義、演習、実験実習の各科目を配置している。必修科目と選択科目は、学生の学修意欲を引き出すために、バランスを工夫している。このように、農学部の教育目的に即して、授業科目が適切に配置されており、教育課程の編成において体系性が確保されている。

資料 1-2-1-3 農学部履修の手引（平成 18, 19 年度）

資料 5-1-1-1 農学部授業時間割表（平成 18, 19 年度）

観点5-1-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

## 農学部 5-1-②

(観点に係る状況)

農学部は、他学部学生のニーズを満たすために、専門科目の一部を学内開放科目として実施している。他方、農学部学生は、他学部の科目を受講可能であり、修得した単位は、自由科目として卒業要件に加えることができる(資料5-1-2-1)。農学部学生は、単位互換制度に基づいて、他大学で開講される科目を履修できる(例：琉球大学の熱帯農学総合実習など)(資料1-2-1-3)。他方、農学部は、フィールド科学総合実習を附属資源循環フィールド科学教育研究センターにおいて毎年実施し、単位互換制度に基づく宿泊実習に他大学の学生を受け入れている。企業や試験場等でのインターンシップを3年前学期に実施し、単位として認定している(2単位)(資料5-1-2-2)。

専門基礎科目の数学や物理学については、成績不良者に対する補講を実施している(資料5-1-2-3)。編入学生については、短期大学等で修得した単位を一括して認定し、農学部の卒業要件に算入している(資料1-2-1-4)。

多様な知的関心をもつ受講生の学修意欲を高め、理解を深めるために教員は、所属学会等における研究成果を授業内容に組み込んだり、新聞記事など活用して、関係分野における社会的状況を紹介している。

(分析結果とその根拠理由)

学内開放科目、単位互換、インターンシップ、専門基礎科目の補講、編入学者への配慮などがなされている。また、授業において、学術の動向や社会的要請との関係が、必要に応じて紹介されている。これらのことにより、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成及び授業科目の内容となっている。

資料5-1-2-1 学内開放科目一覧(平成18,19年度)

資料1-2-1-3 農学部履修の手引(平成18,19年度)

資料5-1-2-2 インターンシップ参加者一覧(農学部,平成18,19年度)

資料5-1-2-3 補講実績表(平成18,19年度)

資料1-2-1-4 学生便覧(平成18,19年度)

観点5-1-③： 単位の実質化への配慮がなされているか。

**農学部** 5-1-③

(観点に係る状況)

単位の实質化については、量と質の両面において、配慮している。

農学部で開講されているすべての講義、演習、実験・実習は、単位取得に必要な授業時間数を確保している。やむを得ず休講になった場合は、必ず補講を実施している。(資料1-2-1-3)

「農学部履修の手引」には、カリキュラム表やシラバスなどの教務事項を詳しく記載している。1年次始めに行うガイダンスなどにおいて、各学科・各コースの履修プログラムについて詳しく説明している(資料5-1-3-1)。教育委員や教務課職員による個別的な履修指導やメールを活用した相談などにより、適切な履修計画を学生が立てられるようにしている。これらのことを通して、学習目標を明確にし、単位を修得するために必要な十分な学習を学生に求めている。

教員は、オフィスアワーを設定するとともに、メールアドレスを公開している。質問がある学生は、教員と連絡を取り、個人的に指導を受けることができる。研究室に所属した後の学生は、卒業研究の指導教員からマンツーマン指導を受ける体制にしてある。

成績評価におけるGPAを、平成18年度から導入している。GPAは、学習意欲を引き出すために活用している(資料5-1-3-2)。

(分析結果とその根拠理由)

授業時間数の確保の徹底、組織的な履修指導などの、単位の实質化に必要な配慮がなされている。

資料1-2-1-3 農学部履修の手引 (平成18, 19年度)
資料5-1-3-1 農学部オリエンテーション (平成18, 19年度)
資料5-1-3-2 GPA導入の方針

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

#### 農学部 5-2-①

(観点に係る状況)

農学部ならびに各学科の教育目的を達成するために、様々な授業形態を組み合わせ、カリキュラムに沿った教育を実施している(資料5-2-1-1)。

農学部専門科目の授業形態別単位数(学科改組後の卒業要件)

学科	コース	講義	演習	実験	卒業研究
応用生物科学科	—	75	2	4	8
生物環境科学科	生物環境保全学	79	2	0	8
	資源循環生産学	77	0	4	8
	地域社会開発学	79	0	2	8
生命機能科学科	—	70	0	11	8

(出典：佐賀大学農学部「履修の手引」)

演習科目の多くは、少人数授業でなされる対話・討論型授業である。フィールド科学基礎実習Ⅰ、Ⅱのようなフィールド型授業や、情報基礎演習Ⅰなどでは、パソコンを利用した授業を実施している(資料5-2-1-1)。農学研究科の大学院生をTAとして採用し、学部学生に対する教育を充実させている。

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的に照らして、講義、演習、実験実習の授業形態がバランスよく組み合わせられており、教育目的に応じた適切な学習指導がなされている。

資料1-2-1-3 農学部履修の手引(平成18,19年度)

資料5-2-1-1 シラバス [http://www.saga-u.ac.jp/research\\_info/index.html](http://www.saga-u.ac.jp/research_info/index.html)

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

#### 農学部 5-2-②

(観点に係る状況)

農学部の教育目的を達成するための教育課程は、農学部教育委員会が検討し、各学科、基本計画委員会ならびに農学部教授会における審議を経て、シラバスが作成されている。

教育課程の実践に必要な各教員が担当する授業科目のシラバスは、シラバスの記入フォーマットを使用して作成している(資料1-2-1-3)。シラバスは、「履修の手引」に掲載するとともに、オンラインシラバスとして公開している。教員は、最初の授業でシラバスの内容を説明するとともに、「学生による授業評価」の結果等を利用して、シラバスを改善している(資料5-2-2-1)。農学部の40%近くの学生が授業内容を知るためシラバスを利用し、専門科目の内容がシラバスに記載された学習目標に即しているとの肯定的意見が多かった(資料5-2-2-2)。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成趣旨に沿ったシラバスが適切に作成され、公開され、授業で活用されている。また、シラバスに記載する事項の改善は、「学生による授業評価」の結果などを利用してなされている。

資料1-2-1-3 農学部履修の手引(平成18, 19年度)

資料5-2-2-1 授業評価実施要領

資料5-2-2-2 佐賀大学学生対象アンケート報告(平成19年度) p34, p37

観点5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

### 農学部 5-2-③

(観点に係る状況)

学生からの質問や要望に対応するため，教員は，オフィスアワーやメールアドレスを学生に公開している（資料5-2-3-1）。附属図書館は，学生用の机，パソコン等を整備し，学生が自由に使える体制としている（資料5-1-3-2）。学生の自主学習のために，総合情報基盤センターや図書館のパソコンを自由に使えるようにしている。

農学部は，学生が机，椅子を自由に使えるリフレッシュスペースを設けている。各研究室では，学生用の空間を整備している。これらを学生が自主学習のために活用している（資料5-2-3-3）。

基礎学力が不足している学生については，専門基礎科目の数学及び物理学で補習授業を実施している（資料5-1-2-4）。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の学生のための自主的学習環境は整備され，利用されている。基礎学力不足の学生への配慮が組織的に行われている。

資料5-2-3-1 オフィスアワー一覧 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/h20.office.html>

資料5-2-3-2 附属図書館利用規程

資料5-2-3-3 農学部建物平面図

資料5-1-2-4 補講実績（平成18，19年度）

観点5-3-①： 教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されているか。

#### 農学部 5-3-①

(観点に係る状況)

佐賀大学成績判定等に関する規程が定められ、この規程に準じて、農学部で開講している授業科目の成績評価を実施している。「成績評価の方法」はシラバスに明記し、学生に周知している。成績判定は、授業科目の内容に応じて、定期試験、小テスト、レポート等により行い、成績評価と単位認定を厳格に実施している(資料5-3-1-1)。卒業認定の要件は、履修細則や「履修の手引」に明記している(資料5-3-1-2, 資料1-2-1-3)。卒業研究については、学系単位で公開の卒業研究発表会を実施するとともに、卒業論文を提出させて、厳格に評価している(資料5-3-1-3)。卒業認定は、学生が修得した科目の単位数と内訳に基づいて、教育委員会における実務的な検討を経て、教授会で審議し、決定している。

(分析結果とその根拠理由)

佐賀大学成績判定等に関する規程などに基づいて、成績評価と単位認定が適切に実施されている。卒業認定は、農学部規則に基づいて、教授会で審議し、決定している。

資料5-3-1-1 佐賀大学成績判定等に関する規程

資料5-3-1-2 農学部履修細則

資料1-2-1-3 農学部履修の手引(平成18, 19年度)

資料5-3-1-3 応用生物科学科応用生物学系卒業研究発表会目次(平成18, 19年度)

観点5-3-②： 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

**農学部** 5-3-②

(観点に係る状況)

佐賀大学成績判定等に関する規程に基づいて、成績判定を行っている(資料5-3-1-1)。試験の答案は、成績判定の妥当性を検証・確認できるように、5年間保存することとしている。成績評価に異議がある学生は、成績評価の異議申立てに関する要項に基づいて、担当教員に申し出ることができる。担当教員との協議によって成績評価に対する疑義が解決されない場合又は担当教員と協議ができない場合には、学部長に申し出ることができるし、農学部の場合は、教育委員に申し出ることができる。教育委員は、学生と担当教員から意見を聴取して、担当教員に問題があると判断した場合は、是正を勧告できる。

(分析結果とその根拠理由)

成績判定等に関する規程に基づく成績判定、学生に対する「成績評価の方法」の周知、成績評価に対する疑義に対応する制度等により、成績評価の正確性を担保するための処置を講じている。

資料5-3-1-1 佐賀大学成績判定等に関する規程
---------------------------

## 6 教育の成果

観点6-1-①： 学生が身に付ける学力，資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして，その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

#### 農学部 6-1-①

(観点に係る状況)

学生が身に付ける学力，資質・能力や養成しようとする人材像等は，佐賀大学農学部・農学研究科概要（資料1-2-1-2），農学部履修の手引（資料1-2-1-3）等で公表している。勉学の達成状況を検証・評価するために，農学部評価委員会を組織している。達成度や問題点は，佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（資料1-2-1-6）等にまとめて公表している。

(分析結果とその根拠理由)

上記のことで，学生が身に付ける学力他の達成状況は，適切に検証・評価されている。

資料1-2-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成18，19年度）

資料1-2-1-3 農学部履修の手引（平成18，19年度）

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部—自己点検・評価報告書—〔平成16，17年度〕

観点6-1-②：各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

#### 農学部 6-1-②

（観点に係る状況）

農学部教育委員会は、各学年終了時及び卒業時まで身に付ける学力や能力、資格取得の状況、あるいは卒論、修論の内容・水準を検討し、教育の成果や効果を確認している（資料1-2-1-6）。履修放棄者を除いた専門科目（178科目）の単位修得率は高く、演習・実験・実習では99%を超え、講義形態の科目では約93%である。

専門科目の授業形態別単位修得率（平成18年度）

講義	演習	実験実習
92.8%	100%	99.5%

備考：数値は、受講者数に対する単位修得者の割合を示す。履修放棄者は除く。

（出典：教務情報システム成績管理データ）

農学部における教育において最も重要な科目と位置付けている卒業研究は、指導教員によるマンツーマンに近い指導を受けながら実施されており、大きな教育効果が得られている。

（分析結果とその根拠理由）

単位修得率ならびに卒業研究の内容から、教育の成果は上がっていると判断される。

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部—自己点検・評価報告書—〔平成16, 17年度〕

観点6-1-③： 授業評価等, 学生からの意見聴取の結果から判断して, 教育の成果や効果が上がっているか。

#### 農学部 6-1-③

(観点に係る状況)

本学部の教育目的に合う教育効果は, 学生による授業評価, 学習達成度に関するアンケート調査等により, 相応の効果が上がっていることが示されている。評価の結果は, 自己点検・評価報告書に記し, 公表している(資料1-2-1-6)。

学生と教職員の意見交換の場である「どがんね, こがんよ, 学生懇談会」(資料6-1-3-1)では, 学生からの改善事項などが提案されている。

(分析結果とその根拠理由)

学生による授業評価によると, 専門必修科目では満足とする学生の回答が高く, 35%近くに達する。また専門選択科目においても満足度が高く, 30%近くに達し, 教育の成果は上がっていると判断される(資料5-2-2-3)。

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部—自己点検・評価報告書—〔平成16, 17年度〕p9-19

資料6-1-3-1 「どがんね, こがんよ, 学生懇談会実施要領」

資料5-2-2-3 佐賀大学学生対象アンケート報告(平成19年度), p30~31

観点6-1-④： 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

#### 農学部 6-1-④

（観点に係る状況）

卒業生の進路は、経済状況（景気）の影響を受ける面があるが、総合科学である農学部の特性を反映して、公務員、JA、食品、化学工業など、様々な分野へ進出している。農学部卒業生の過去4年の就職率は上昇している。

農学部卒業生の就職率

区 分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
農学部卒業生	86.0%	90.3%	96.9%	97.9%

（分析結果とその根拠理由）

就職実績から判断して、教育の成果は上がっている。

資料1-2-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要(平成20年度)

観点6-1-⑤：卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

## 農学部 6-1-⑤

（観点に係る状況）

卒業生や就職先等の関係者から、在学時に身に付けておくべき学力や資質・能力等について意見を聴取するためのアンケート調査を実施した結果、採用時及び採用後の農学部卒業生の資質について、回答企業68社から良好な評価を得た（資料6-1-5-1）。

採用時における農学部卒業生に対する企業の評価

評価項目	回答数			
	非常に満足	満足	やや不満足	不満足
専門基礎の知識と能力	6	46	5	0
実験などの基礎技術	5	43	19	0
外国語能力	2	23	19	2

（出典：企業アンケート調査結果報告書）

採用後の農学部生に対する企業の評価

評価項目	回答数			
	良く適応	適応	やや不適応	不適応
職場環境への適応	17	39	1	0
会社への貢献	非常に貢献	貢献	やや貢献	貢献なし
	9	44	5	0

（出典：企業アンケート調査結果報告書）

農学部卒業生に対して、就職先企業から、「積極性」、「企画力」、「創造力」、「リーダーシップ」、「社交性」などの向上が求められている。また、在学中に取得が望ましい資格として、外国語能力、危険物保安監督者、農業改良普及員、測量士、技術士補、試験設計組立、MCA、MCP、運転免許、教員免許などが挙げられている。

（分析結果とその根拠理由）

卒業生や就職先等の関係者からの意見聴取の結果、本学部の教育の成果や効果は上がっていると判断される。

資料6-1-5-1 企業アンケート調査結果報告書（平成17年度）、p1～20

## 7 学生支援等

観点7-1-①： 授業科目や専門，専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

**農学部 7-1-①**

(観点に係る状況)

農学部教育委員会は、授業科目や専門，専攻の選択の際のガイダンスを、新学期及び前学期終了時（後学期開始前）に実施している。また、各学科・講座等の具体的な教育研究内容，教員組織等の具体的な内容は、佐賀大学農学部・農学研究科概要（資料1-2-1-2）に記し、詳しく説明している。

(分析結果とその根拠理由)

授業科目や専門，専攻選択の際のガイダンスは、農学部教育委員会により、適切に実施されている。また学生対象アンケートの結果では、授業科目の履修方法についての理解度について、50%弱の学生が肯定的な回答を寄せており、このことを裏付けている(資料5-2-2-3)。

資料1-2-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成18，19年度）

資料5-2-2-3 佐賀大学学生対象アンケート報告(平成19年度)，p13

観点7-1-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。

#### 農学部 7-1-②

(観点に係る状況)

学習支援に関する学生のニーズの組織的な把握は，主に，農学部教育委員会と農学部学生委員会が担当している(資料7-1-2-1, 7-1-2-2)。

平成19年度にチューター(担任)制度を発足させ，大学入門科目担当教員がチューターとなり，受け持った学生の所属分野が決まるまで，必修科目の単位修得状況などに基づく学習支援と助言を行っている(資料7-1-2-3)。

農学部の全教員は，オフィスアワーを設定し，学習相談，助言を行うとともに，Eメールによる相談・助言体制も整えている(資料5-2-3-1)。

(分析結果とその根拠理由)

学習支援に関する学生のニーズを把握し，適切な学習相談，助言を行っている。

資料7-1-2-1 学生相談者等調(平成18, 19年度)

資料7-1-2-2 佐賀大学学生生活実態調(平成18, 19年度)

資料7-1-2-3 チューター(担任)制度ガイドブック(2007年3月)

<http://www.saga-u.ac.jp/gakunai/syokuinyou.htm>

資料5-2-3-1 オフィスアワー一覧 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/h20.office.html>

観点7-1-④： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

**農学部 7-1-④**

(観点に係る状況)

農学部の留学生，社会人入学生，編入学生，障害のある学生など，特別に支援が必要な学生の入学に備えて，留学生担当専門教員，教育委員会，学生委員会を配置して，学習支援体制を整えている。留学生については，学生チューター制をとり，学習と生活支援を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の各種委員会及び関係教員が，特別な支援が必要な者への学習相談，助言を適切に実施している。

観点7-2-①： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

**農学部 7-2-①**

(観点に係る状況)

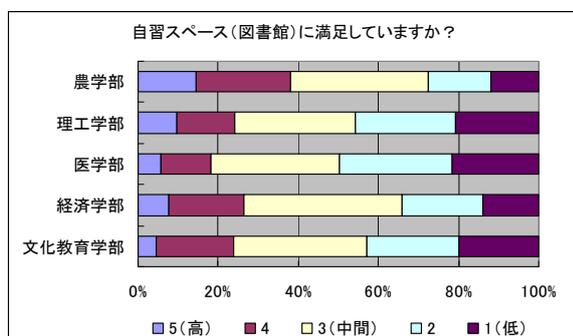
農学部の学生が利用する主な学習スペースは、附属図書館と農学部建物内にある。

附属図書館は、授業で使う参考図書を充実し、学生用の机、パソコン等を整備している(資料5-2-3-2)。農学部の建物内には、学生が自由に使える学習机と椅子を備えた学生専用スペースを設けている(資料5-2-3-3)。学生への連絡や自習スペースとして、コミュニケーションルームを設けている。各々の教育研究分野(研究室)は、主として3学年以上の学生が学習に利用できるスペースを設けている(資料5-1-2-3)。

農学部の自習スペースと設置図書、機材等(平成19年度)

学科	スペース (m <sup>2</sup> ) /年間延利用時間	図書、機材等			
		机	椅子	書籍	パソコン数
応用生物科学科	345/1,600	94	111	8,525	29
生物環境科学科	606/1,600	152	211	19,719	76
生命機能科学科	212/1,600	36	62	6,926	20

備考：自習スペースの利用状況調査(19年度)から



(分析結果とその根拠理由)

附属図書館内、農学部建物内及び研究室には、机、椅子、パソコン等を自由に利用できる学習環境が整備され、効果的に利用されている。

資料5-2-3-2 附属図書館利用規程  
 資料5-2-3-3 農学部建物平面図  
 資料5-1-2-3 自習スペースの利用状況調査(平成19年度)

観点7-2-②： 学生のサークル活動や自治活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われているか。

**農学部** 7-2-②

(観点に係る状況)

学生のサークル活動や自治活動等の課外活動への支援は、全学的に行われているため、農学部では、特段の対策は実施していない。

(分析結果とその根拠理由)

理由省略

観点7-3-①： 生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており，健康，生活，進路，各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され，適切に行われているか。

#### 農学部 7-3-①

(観点に係る状況)

学生委員会委員，大学教育委員会委員，チューター（担任），卒論指導教員，学生生活課職員，農学部教務係職員を含む全ての教職員が，学生のニーズの把握と対応に努めている。すべての教員はオフィスアワーを設定し，一般学生，留学生，社会人学生，障害を有する学生からの多岐にわたる相談に対応している。（資料7-3-1-1）

新入生から，教育研究分野への分属が決まるまでの学生については，チューター（担任）が相談役を務めている。各チューターは，約20人の学生の相談役となり，各学期毎に，必要に応じて個人面接を行うことにより，課題を抱えている学生を把握し，対応している。面接日時等は，掲示等により，学生へ周知している。教育研究分野へ分属した学生については，卒論指導教員が対応している。ハラスメントについては，同和人権問題委員会委員及び同相談委員が主として対応している。

(分析結果とその根拠理由)

学生のニーズ把握と，ハラスメント等の問題が生じた場合の体制は整備され，機能している。

資料7-3-1-1 教員報告様式 [佐賀大学ホームページ（職員向け掲示板）] <a href="https://udb.cc.saga-u.ac.jp/staffData/">https://udb.cc.saga-u.ac.jp/staffData/</a>
---

観点7-3-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

**農学部 7-3-②**

(観点に係る状況)

特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等は、全学的に行われているため、農学部としての組織的な支援は行われていない。また、現時点において該当学生は在学していない。

(分析結果とその根拠理由)

理由省略

観点7-3-③： 学生の経済面の援助が適切に行われているか。

**農学部 7-3-③**

(観点に係る状況)

全学部の学生を対象とした学生支援機構の奨学金は、多くの農学部学生が利用している。

農学部の学生だけを対象とする給付型奨学金(中董奨学金)を、成績優秀な学生1人が受給している(資料7-3-3-1)。  
これ以外の奨学金等に関する情報は、掲示等により、学生に周知している。

(分析結果とその根拠理由)

学生に対する経済的支援は、公平を期しながら、学生生活課と学生委員が適切に実施している。

資料7-3-3-1 中董奨学生募集要項 (平成19年度)
------------------------------

## 8 施設・設備

観点8-1-①： 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

## 農学部 8-1-①

(観点に係る状況)

農学部は、1号館から4号館の建物の他に、圃場、大型温室を含む温室等を有しており、年間を通して活用している(資料8-1-1-1)。附属資源循環フィールド科学教育研究センターには、農場及び畜産設備があり、農場実習や学生の学位論文や卒業論文作成等に有効に利用されている。学内共同教育研究施設である海浜台地生物環境研究センターは、フィールドを重視した教育研究に必要な施設・設備を整備し、活用できるようにしてある。

農学部共通の講義室は、1号館に6室あり、学部及び大学院の講義に利用されている。さらに、少人数の講義や研究指導を円滑に運用するためのセミナー室、学部の卒業研究や大学院の特別研究を行う学生の研究室や実験室を整備している。大学院生用の演習室及び自習室は、学部教育のためにも活用できる。

平成19年度 農学部講義室使用率(1週間)

講義室番号	収容人員	前期		後期	
		使用回数	使用率(%)	使用回数	使用率(%)
1	48	16	64	12	48
2	48	14	56	10	40
3	99	18	72	18	72
4	60	9	36	13	52
5	110	15	60	15	60
大講義室	204	9	36	12	48

学生の実験・実習用の設備として、生物学実験室が1室、化学実験室が1室、実習棟が1棟ある。これら講義室・実験室等の配置は、学生便覧(資料8-1-1-2)、履修の手引(資料8-1-1-3)等に示し、広く学生等に周知している。

身体障害者のために、1号館と4号館にエレベーターを設置している。農学部の各建物には、身障者用の駐車場、スロープ、トイレ及びリフレッシュホールなどを設け、また、講義室内にも障害者用スペースを確保するなど、バリアフリー化を進めている。

本学部の教育・研究を潤滑に運営していくために、学部運営会議室(大会議室)及び小会議室が整備され、教授会や学科会議等に活用されている。さらに、前記の学生用のセミナー室等も運営のための会議等に適宜利用されている。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の目的に即した施設・設備が整備され、活用されている。身障者の学習等に配慮したバリアフリー化が進められている。

資料 8-1-1-2 学生便覧（平成 18 年度 p452～456，平成 19 年度 p474～479）

資料 8-1-1-3 農学部履修の手引（平成 18 年度 p203～207，平成 19 年度 p107～111）

観点8-1-②： 大学において編成された教育課程の遂行に必要なICT環境が整備され、有効に活用されているか。

## 農学部 8-1-②

(観点に係る状況)

農学部では、ほぼ全ての研究室、演習室、実験室にインターネットの有線LAN末端及び大学が管理する10ヶ所の無線LANポートを設けている(資料8-1-2-1)。

農学部無線LAN設置一覧

No	設置場所
1	農学部運営会議室(農学部1号館南棟1F)
2	生物学学生実験室(農学部1号館中棟1F)
3	第2講義室(125)前廊下(農学部1号館南棟一中棟1F)
4	農学部101講義室(農学部1号館南棟1F)
5	第4講義室(233)前廊下(農学部1号館南棟2F)
6	環境資源学学生演習室前廊下(農学部4号館1F)
7	教員研究室前廊下(農学部4号館2F)
8	農学部合併教室(大講義室)
9	農学部4号館5F
10	林研究室(農学部1号館)

学生には、入学後すぐにインターネット・アドレスが与えられ、個人用ならびに図書館あるいは情報演習室に設置しているパソコンを用いて、就学に必要な情報を、学内及び学外から自由に得ることができる。科目履修と学生生活に関しては、それぞれ農学部教育委員及び農学部学生委員へ直接アクセスできるメールアドレスを設けている(資料8-1-2-2)。学生センターへは、インターネットと携帯電話からアクセスできるアドレスを設けている。さらに、各教育研究分野(研究室)の自習スペースには合計125台のパソコンが設置されている(資料8-1-2-3)。

(分析結果とその根拠理由)

教育の内容・方法や学生のニーズを満たすための情報ネットワークの整備は、おおむね達成され、教職員及び学生により有効に活用されている。

資料8-1-2-1 農学部ICT環境(LAN、パソコン設置状況)

資料8-1-2-2 農学部履修の手引(平成18年度p218、19年度p122)

資料8-1-2-3 自習スペースの利用状況調査(平成19年度)

観点8-1-③： 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

### 農学部 8-1-③

（観点に係る状況）

農学部は、基本計画委員会規程及び施設委員会規程を定め、それぞれの委員会で施設・設備の運用方法に係る諸課題について審議し、審議結果を教職員へ周知している（資料8-1-3-1、資料8-1-3-2）。農学部が作成した「実験・実習における安全の手引」（資料8-1-3-3）に施設・設備の利用方法を明記し、全ての実験室等の目につく場所に配置している。また、新入生オリエンテーションで新入生に周知を図るとともに、実験・実習の際に再度、使用方法を指導している。

農学部の施設・設備の運用に深く関る農学部1号館の改修は、基本計画委員会において審議・立案され、改修後に適用され、佐賀大学農学部共同利用スペース利用細則（資料8-1-3-4）も制定した。農学部における教育研究環境を格段に充実させた建物改修は、下記の基本方針と運用法（ゾーニング）に基づいて実施した。

#### 【建物改修の基本方針】

- 1 研究施設の老朽化や狭隘化を解消し、安全かつ機能的で、高度化された教育環境を確保する。
- 2 教育研究組織やカリキュラムなどの大学改革に迅速に対応し、かつ生涯学習や地域社会への貢献を支える施設機能を備えた教育研究環境に整備する。

#### 【機能に基づく建物のゾーニング】

- 1 スクーリングゾーン（コミュニティスペースを含む学生の教育と生涯学習などを行う）
- 2 ハイテクラボラトリーゾーン（大学院の高度な教育研究や民間企業とのプロジェクト型共同研究を行う）
- 3 リサーチゾーン（各教員の研究や学生の指導などを行う）

学科・学系などの専門教育研究分野ごとに集団化することにより、実験スペースや施設のオープン化、共有化、共同利用化の促進と、研究教育機能の効率化を進めた。学生コミュニケーションスペース、大学院演習室、学生自習室、広報室、地域支援相談室、高度分析実験室、客員教授室などを設けて、キャンパスアメニティの形成とともに、産学の連携・協力型研究及び生涯学習などの地域貢献の推進に配慮した。

高度な教育研究に必要な機器は、総合分析実験センター機器分析部門の装置として登録・管理されており、その利用に関しては、佐賀大学ホームページの利用案内（資料8-1-3-5）に示されている。多目的講義室、大学院演習室、学生演習室、会議室の使用に当たっては、事前に予約表に記入することを義務づけている。液晶プロジェクター、実物投影機、OHP、スライドプロジェクターなどの教育機器についても集中管理し、予約制としている。

（分析結果とその根拠理由）

農学部の施設・設備の整備・運用は、基本計画委員会・施設委員会で検討され、教職員及び学生に周知され、有効利用が図られている。農学部の教育研究に必要な施設・設備は、1号館の建物改修により格段に改善された。

資料8-1-3-1 農学部施設委員会規程

資料8-1-3-2 農学部基本計画委員会規程

資料8-1-3-3 実験・実習における安全の手引 p17～23, p45～51

資料8-1-3-4 農学部共同利用スペース利用細則

資料 8-1-3-5 佐賀大学総合分析センター ホームページ

<http://www.iac.saga-u.ac.jp/index2.htm>

観点8-2-①： 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

**農学部** 8-2-①

(観点に係る状況)

農学部の図書類は、附属図書館に集中しており、独自の図書館を有していない。

(分析結果とその根拠理由)

理由省略

## 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

観点9-1-①： 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。

**農学部 9-1-①**

(観点に係る状況)

教員の教育活動の実態を示す資料（講義ノート、スライドファイル、資料等、学生の出席状況、試験問題、レポート課題、答案、レポート、成績結果、卒業論文、修士論文等）は、各教員が責任をもって保管・蓄積している。博士論文は、論文本体とPDF ファイルを図書館で保管・蓄積している。これらの資料に基づく教育活動の実態は、農学部教育研究業績総覧及び農学部自己点検評価報告書として4年ごとに取りまとめ、公開している（資料3-2-2-2、資料1-2-1-6）。

(分析結果とその根拠理由)

教育の活動実態を示すデータや資料の適切な収集・蓄積及びその組織的な集計がなされている。

資料3-2-2-2 佐賀大学農学部教育研究業績総覧（2006年3月） 資料1-2-1-6 佐賀大学農学部—自己点検・評価報告書—〔平成16、17年度〕
--

観点9-1-②： 大学の構成員（教職員及び学生）の意見の聴取が行われており、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

#### 農学部 9-1-②

（観点に係る状況）

「学生による授業評価」の集計結果とアンケート用紙の原票は教員へ返却され、授業改善に活用されている（資料5-2-2-2）。農学部を含む全学部の授業評価を取り纏めた授業評価報告書には、集計・比較・分析された各評価項目のデータを記している（資料3-2-2-6）。この分析結果を見ることにより、教員は担当科目についての相対的評価を知り、授業改善に活用できる。全学的に実施している「どがんね、こがんよ、学生懇談会」において、学生の意見聴取と意見交換を実施している（資料6-1-3-2）。

大学教育委員会のFD専門委員会は、授業改善に資するため、授業評価の結果の活用（フィードバック）に関する先進事例等を紹介している。農学部FD専門委員会は、全学的なFD活動と連携しながら、教育の質的改善に向けた活動（講演会等）を実施している。

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業評価、FD活動等が行われ、学生及び教員からの意見聴取（資料9-1-2-1）を踏まえ、教育の質の向上に反映させている。

資料5-2-2-2 授業評価実施要領（佐賀大学教育委員会）
資料3-2-2-6 学生による授業評価と改善に関する実施報告書（平成19年度）
資料6-1-3-2 「どがんね、こがんよ、学生懇談会実施要領」
資料9-1-2-1 佐賀大学教員対象アンケート報告（平成18年度）

観点9-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

#### 農学部 9-1-③

(観点に係る状況)

学外関係者の意見は、学生の保護者、同窓会会員、学部卒業生の採用企業、外部評価委員等から得ており、教職員の意識改革と教育の質的向上・改善に活用している。

農学部後援会を毎年開催し、保護者に対する教育活動報告と意見交換を行っている。意見交換を通して得られた要望等は、学科会議や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映している。農学部同窓会総会には、学部長、学科長等が出席し、農学部における教育活動の報告と、卒業生からの意見聴取を行い、その結果を教育活動へ反映している。農学部卒業生の就職先に対するアンケート調査を農学部就職委員会が実施している。卒業生に対する社会の評価を学部教育へ反映させるために、報告書を作成し、各教員へ周知している(資料6-1-5-1)。4年ごとに実施する農学部自己点検・評価において、学外評価委員からの意見を聴取し(資料1-2-1-6)、農学部教育委員会や学部運営委員会で検討し、教育活動の改善に活用している。

(分析結果とその根拠理由)

学外関係者から聴取した意見によると、本学部卒業生の企業における評価は高かった。企業アンケート調査による意見を参考とし、教育の改善に活用するなど、学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされている。

資料6-1-5-1 企業アンケート調査結果報告書(平成17年度)

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部—自己点検・評価報告書— [平成16～17年度]

観点9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。

#### 農学部 9-1-④

(観点に係る状況)

授業の質的改善の基礎データとなる『「学生による授業評価」の実施に関する報告書』の作成に、農学部の教育委員も参加している(資料3-2-2-6)。大学教育委員会が作成した報告書は、農学部教育委員会で検討し、学科会議等において周知している(資料2-2-2-1)。学部運営会議(資料9-1-4-1)及び農学部評価委員会(資料3-2-2-1)における検討を経て、農学部全体の教育課程の見直しと改善を行っている。

学生による授業評価の結果、映像を用いた分かりやすい講義スタイルに対する学生の要望が強いことが示された。この要望に応えるため、講義室にビデオ装置を設置するとともに、無線LANポートやLAN有線接続ポートを設け、インターネットを活用した講義を可能とした(資料9-1-4-2)。同時に複数の講義で映像を用いることを可能にするため、年度計画を立てて、液晶プロジェクターを揃えてきた。各教員の授業改善の取組みを個人評価の点検項目とし、授業改善を促している(資料3-2-2-4、資料3-2-2-3)。

(分析結果とその根拠理由)

評価結果を教育の質的向上に結びつける取組みと授業改善は、継続的に実施されている。

資料3-2-2-6	学生による授業評価と改善に関する実施報告書(平成19年度)
資料2-2-2-1	農学部教育委員会規程
資料9-1-4-1	農学部運営会議規程
資料3-2-2-1	農学部評価委員会規程
資料9-1-4-2	農学部映像機器整備表
資料3-2-2-4	農学部教員個人評価書実施要項
資料3-2-2-3	佐賀大学農学部における教員の個人評価に関する実施基準

観点9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

#### 農学部 9-2-①

(観点に係る状況)

「学生による授業評価」の結果を活用したFD活動を行うために、大学教育委員会で授業評価の結果を集計分析し、各学部へフィードバックしている(資料9-2-1-1)。「どがんね、こがんよ、学生懇談会」(資料9-2-1-2)を組織し、他学部における教育活動の事例を参照しながら各学部の教育の質的向上に利用している。農学部教育委員会内にFD専門委員会を置き、授業評価の活用法についてのFDセミナーを実施した(資料9-2-1-3)。学生や教職員のニーズを反映したFD活動を実施している(資料9-2-1-4)。

(分析結果とその根拠理由)

組織としてのFD活動が実施され、授業改善に活用されている。

資料3-2-2-6 学生による授業評価と改善に関する実施報告書(平成19年度)

資料6-1-3-2 「どがんね、こがんよ、学生懇談会」

<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/gakuseiseikatsu-kondankai.html>

資料2-2-2-2 農学部教育委員会議事録(平成19年度)

資料2-2-2-1 農学部教育委員会規程

観点9-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

#### 農学部 9-2-②

(観点に係る状況)

技術職員、ティーチング・アシスタント等は、実験、実習において、授業担当教員と連携をとりながら、教育支援を担っている。教育支援者は、実験、実習等の場において、On Job Training も受けながら、資質を向上させている。ティーチング・アシスタントについては、授業担当教員による説明（事前研修）を実施している。技術職員に対しては、資質の向上を目的とした研修会を実施している（資料9-2-2-1）。

(分析結果とその根拠理由)

教育支援者の資質の向上を図る研修等の取組は適切に実施されている。

資料9-2-2-1 佐賀大学教室系技術職員学科別技術専門研修（平成18、19年度）
---

## 10 管理運営

観点11-1-1①： 管理運営のための組織及び事務組織が、大学の目的の達成に向けて支援するという任務を果たす上で、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

## 農学部 11-1-1①

(観点に係る状況)

農学部の管理運営は、学部長のリーダーシップの下で、教員組織と事務組織（農学部事務長、総務係職員及びフィールドセンター事務係職員）が連携・協力しながら、任務を果たしている。農学部では、管理運営に関する各種委員会を設置している。

管理運営に関する農学部委員会と構成員（平成19年5月現在）

委員会等の名称	構成員
学部運営会議	学部長，副学部長（2），学科長（3），副学科長（1）
農学部予算委員会	副学部長（2），学科選出教員（3）
農学部基本計画委員会	副学部長（1），講座選出教員（7），フィールドセンター（1）
農学部人事委員会	学科選出教員（6）
農学部評価委員会	学部長，副学部長（2），大学評価委員会委員（2），学科長（3），フィールドセンター長，事務長
農学部施設委員会	副学部長（学部長指名），大学施設マネジメント委員会委員（1），基本計画委員会委員（2）
農学部安全衛生委員会	副学部長（学部長指名），講座選出委員（7），センターの衛生推進者（1），農学部技術職員（1），センター技術職員（1），学生委員会委員（1）
フィールドセンター運営委員会	センター長，副センター長（1），学科選出委員（3） センター長が必要と認めた者（3），センター専任教員（2），事務長

管理運営を含む重要事項について検討するための組織として、学部運営会議（学部長、副学部長、学科長、副学科長の7人で組織）を設置している。管理運営に係る事項は、教授会において周知されている。農学部教授会は、助教を含む全教員により構成し、教育研究評議員及び各種委員会委員の選出や、その他の運営に関する事項の審議を行っている。

危機管理のために、「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め、教職員と学生へ周知している。緊急事態の発生を未然に防止するための実務は、専門知識を持つ教員を含む農学部安全衛生委員会（委員長は副学部長）、農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会等が担当している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の管理運営の組織と事務組織は、適切な規模となっており、適切に機能している。危機管理等の体制は、法人化後に強化され、適切に機能している。

観点11-1-③： 大学の構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者のニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映されているか。

#### 農学部 11-1-③

（観点に係る状況）

教職員のニーズは、各種学内委員会、学科会議等を介して把握されている。教育研究分野レベル及び個人レベルのニーズも把握できるように配慮している。

学生のニーズは、多様なチャンネルを介して、把握している。学生生活については、学生委員会と学生生活課、学習については、教育委員会と教務課がニーズ（課題）を把握している。チューター（担任）を含む全教員は、学生（卒業生を含む。）ならびに保護者（農学部後援会会員）のニーズ把握に努めている。

学外者からのニーズは、卒業生の就職先企業、地元佐賀県関係、外部評価委員を通して把握している。外部評価委員会は、多様な分野（九州大学農学部長、報道関係者、佐賀県生産振興部、佐賀県産業関係者、佐賀大学農学部同窓会）からの委員で構成し、農学部の管理運営についての意見も求めている（資料1-2-1-6）。

農学部教職員、学生、学外者のニーズは、農学部あるいは各学科で検討し、管理運営に活かしている。

（分析結果とその根拠理由）

農学部内外のニーズを把握し、適切に管理運営への反映がなされている。

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部—自己点検・評価報告書—〔平成16, 17年度〕 p17～20
--

観点11-2-①： 管理運営に関する方針が明確に定められ、その方針に基づき、学内の諸規定が整備されるときともに、管理運営に関わる委員や役員の選考、採用に関する規定や方針、及び各構成員の責務と権限が文書として明確に示されているか。

## 農学部 11-2-①

(観点に係る状況)

農学部の管理運営は、全学的な管理運営に係る諸規則・諸規程に加えて、農学部独自の諸規程等を制定・整備し、農学部の管理運営に係る業務を遂行している。農学部の諸規程等には、制定目的、職務、委員会構成などを明記している。

農学部の管理運営に関する主な規則・規程等（平成19年5月現在）

全般	農学部規則，農学部教授会規程，農学部運営会議規程，農学部副学部長に関する規程（選考規程），農学部事務分掌規程，農学部学科長規程（選考規程），農学部基本計画委員会規程，教育研究分野の新設及び改廃の手続きについて，農学部学科改組における学科長及び副学科長の職務に関する申合せ
評価	農学部評価委員会規程
人事	農学部長候補者選考規程，農学部人事委員会内規，人事委員会申合せ，農学部の人事に関する申合せ，教員の特別昇給候補者選考実施要領
予算	農学部予算委員会規程，学部・大学院修士課程予算配分方法，特別設備の維持費及び研究基盤支援促進経費並びに外部研究資金から光熱費等としての振替に関する申合せ
施設・安全管理	農学部施設委員会規程，農学部施設点検・評価実施細則，農学部安全衛生管理規程，農学部安全点検実施要領，農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会内規，農学部防火管理委員会内規
附属センター	農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター規程，農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター長選考規程

農学部の運営に関する重要事項は、農学部長（農学研究科長を兼務）を議長とする農学部教授会で審議し、教授会構成員全員が、全学制的或いは全学的な視野に立った学部運営を行っている。教授会の審議を実質化させ、円滑な運営を行うために、学部運営会議、学科会議及び各種委員会等が設けられている。委員会の構成、責務、権限等は委員会規程等に明記されている。

農学部の管理運営責任者である農学部長の候補者の選考は、佐賀大学農学部長候補者選考規程に定めている。学部長候補者選挙管理委員会の管理の下で実施される学部長候補者の選挙結果に基づいて、教授会で審議し、学部長候補者を学長に推薦する。佐賀大学学部長選考規則に基づいて、当該学部からの推薦を受けて、学長が学部長を選考する。

学部長は、教員選考委員会に出席して意見を述べることができ、学部の人事計画について方針を示すことができる。

農学部は、副学部長は置かず、学部選出の評議員が学部長を助ける慣行があったが、平成19年度から、副学部長（2人）を置くことになった。

学科長は、学科構成員による選挙で選出され、学科を代表し、学科の運営及び学科における教育研究活動に関する事項を処理している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部管理運営に関する諸規程が整備されている。管理運営に関わる委員会等を設置し、委員会等の責務、権限、委員選考方法等を文書として明確に定めている。

観点11-2-②：大学の活動状況に関するデータや情報が適切に収集、蓄積されているとともに、教職員が必要に応じて活用できる状況にあるか。

## 農学部 11-2-②

(観点に係る状況)

農学部教員には、「教員報告様式」の提出を義務付けている(資料11-2-2-1)。この様式には、教育、研究、社会貢献、組織運営の各領域に関する全学指定項目に加えて、農学部評価委員会で定めた項目についての活動実績が記されている。各教員の活動実績は、各学科長により集約され、学部長の評価を受ける。この様式は、個人評価の他に、部局自己点検評価や法人評価、認証評価の基礎資料として活用している。

### 1) 意思決定に必要な情報の収集状況

情報の収集方法は、多岐にわたるが、主な学外情報源としては、文部科学省訪問による情報、全国学部長会議による中央又は他大学情報、文部科学省の広報誌、インターネットによる他大学情報、訪問や電話・FAXによる他大学情報、学部教員による他大学情報を利用している。

### 2) 教職員に対する公開の状況

得られた情報の伝達は、回覧とメールを利用しているが、重要情報については、その都度、直近の教授会等で学部長が報告を行っている。また、全学委員会及び学部委員会からの情報は、委員会の開催ごとに学部構成員に対してメールで内容を配信している。

(分析結果とその根拠理由)

教員報告書により、農学部教員の活動状況が収集、蓄積されている。活動状況に関する評価結果は各教員に通知され、活動状況の分析結果は、部局別評価等に利用されている。

資料11-2-2-1 平成19年度教員報告様式データ閲覧ホームページ

<https://udb.cc.saga-u.ac.jp/staffData/UnivBaseDBBrowse/browse>

観点11-3-①：大学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われており、その結果が大学内及び社会に対して広く公開されているか。

#### 農学部 11-3-①

(観点に係る状況)

農学部の自己・点検評価は、農学部評価委員会（構成：学部長，副学部長，佐賀大学評価委員，学科長，附属資源循環フィールド科学教育研究センター長，事務長）が，教育，研究，国際交流・社会貢献，組織運営及び施設の5つの領域について実施している（資料3-2-2-1）。自己点検・評価の結果は，冊子として発行し，公開している（資料1-2-1-6）。また，評価報告書はウェブサイト上でも閲覧することができる（資料11-3-1-1）。

(分析結果とその根拠理由)

法人（大学）が実施する自己点検・評価に加えて，農学部独自の自己点検・評価がなされ，その結果は公表されている。

資料3-2-2-1 農学部評価委員会規程

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書〔平成16～17年度〕

資料11-3-1-1 大学評価について（佐賀大学ホームページ）

<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>

観点11-3-②： 自己点検・評価の結果について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による検証が実施されているか。

#### 農学部 11-3-②

（観点に係る状況）

農学部の自己・点検評価は、農学部評価委員会が実施し、2年に一度、外部評価委員による検証を受けている。5つの領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営、施設）について実施された平成16・17年度の自己点検・評価については、外部評価委員5人（九州大学農学部長、佐賀県生産振興部長、佐賀大学農学部同窓会長、佐賀新聞社取締役報道局長、佐賀県経済調査会専務理事）による検証結果を、平成18年11月に得た。自己点検・評価と外部評価の結果は冊子として取りまとめられ、公表された（資料1-2-1-6, 11-3-1-1）。冊子は、学部改善に資するため農学部教員と関係教職員へ配布された。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価した結果について、学外者による検証は実施されている。

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書〔平成16～17年度〕 資料11-3-1-1 大学評価について（佐賀大学ホームページ） <a href="http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm">http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm</a>
--

観点11-3-③： 評価結果がフィードバックされ、管理運営の改善のための取組が行われているか。

**農学部 11-3-③**

(観点に係る状況)

評価の結果明らかになった問題点は、学科会議、学部教育委員会、学部運営会議等で検討するとともに、改善が必要な事項を教員へ周知し、教育の質の向上のために活用している(資料1-2-1-6)。教育の質の向上・改善を図るために必要な抜本的な事項については、学部基本計画委員会で検討がなされ、教授会の議を経て、平成18年度に学科改組がなされた(資料11-3-3-1)。

(分析結果とその根拠理由)

評価結果のフィードバック・システムが整備され、管理運営の改善に活用されている。

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書〔平成16～17年度〕

資料11-3-3-1 学部運営会議議事録(平成18年度)

観点11-3-④： 大学における教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報をわかりやすく社会に発信しているか。

#### 農学部 11-3-④

(観点に係る状況)

大学(法人)として行う全学的な教育研究活動状況調査(評価)の中で、農学部の活動の要点を報告している。また、農学部の活動に関する詳細を記した冊子を発行し、高等学校など関係機関に配布している(資料1-2-1-2)。教育研究活動の状況は、農学部のホームページに掲載し、広く社会に向けて発信している(資料1-2-1-5)。農学部として実施しているプロジェクト型研究の成果は、同窓会と共同して、公開シンポジウムを毎年開催し、平易に紹介している(資料11-3-4-1)。

(分析結果とその根拠理由)

教育研究活動の状況とその活動の成果は、社会(学外者)へわかりやすく発信されている。

資料1-2-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要(平成18~19年度)

資料1-2-1-5 農学部ホームページ

<http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html>

資料11-3-4-1 学長経費(中期計画実行経費)事業成果報告書(平成18~19年度)

## 1 1 教育サービス

観点B-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

## 農学部 B-1-②

(観点に係る状況)

正規課程以外の学生に係る諸規程等に基づいて、生涯学習の一環として、各種の教育活動を実施している。

### 1) 科目等履修生

資格取得を目的とする学生を含む、農学部教員が担当した科目等履修生は、表16のとおりである。科目等履修生の履修目的は、主に、資格取得（教職免許等）である。

表16. 科目等履修生の履修科目と受講生数

授業科目名	履修年度（履修者数）	授業科目名	履修年度（履修者数）
農業科教育法	平成16（1）、平成17（2）	動物行動生態学	平成18（1）
微生物薬品化学	平成17（1）	システム生態学	平成19（1）
物理学実験	平成18（2）	熱帯作物改良学	平成19（1）
実験地圏環境学	平成18（1）	動物繁殖生理学	平成19（1）
地球科学	平成18（1）	化学	平成20（1）
昆虫学	平成18（1）		

注) 18年、19年は大学院生が学部の授業を受ける科目等です。

### 2) 公開講座

農学部教員が担当した公開講座は、表17のとおりである。

表17. 農学部教員が担当した公開講座

年度	公開講座名
平成18年	大学と地域の協働による環境と地域の再生
	おいしくてヘルシーなハムとソーセージ作り
平成19年	佐賀大学県境学習インストラクター（初級）養成講座
	みかんの収穫体験と果汁100%ジュースの製造
平成20年	小さな生き物の多様な世界
	おいしくてヘルシーなハムとソーセージ作り

### 3) 地域と共同した教育活動

農学部教員が担当した地域貢献活動は、表19のとおりである。

表19. 農学部教員が担当した地域貢献活動（例）

活動例	実施年度
地域貢献事業「はちがめエココミねっと」	平成 16 年
「高校生を対象とした遺伝子組換え実験」	平成 16 年
子供を対象とした「ユニキッズ」	平成 16 年
シンポジウム「環境保全型農業を目指す作付け体系の現状と課題」	平成 17 年
佐賀大学公開シンポジウム「循環型社会へ向けた食料生産・加工・消費システムの研究・開発」	平成 18 年～20 年

(分析結果とその根拠理由)

科目等履修生を受入れ、地域貢献型の教育（フィールド活動）の積極的な展開、公開講座の開催等、市民を含む非正規学生に対する教育サービスを適切に実施している。

観点B-1-③： 活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されているか。また、活動の実施担当者やサービス享受者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

### 農学部 B-1-③

(観点に係る状況)

科目等履修生は、資格取得(教職免許, 等)を目的とする者にほぼ限定されているため、受講者数は少ない(資料B-1-3-1)。公開講座の受講者数の過去3年の平均数は、1講座当たり約12人であり、実際に役立つ講座についての満足度が高い(資料B-1-3-2)。平成19年度のネット授業は、農学部教員が2科目担当しており、受講者数の平均は41人である。オンデマンド型でなされるネット授業の受講者の満足度はおおむね良好である(資料B-1-3-3)。

農学部、農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターならびに地域(自治体・団体・NPO)との連携に基づく地域貢献活動(例:伊万里はちがめプラン, 蕨野の棚田支援, 水みちマップ運動への参加, 食育教育, 等)には多くの学生・教員・市民等が参加し、極めて活発に実施し、この活動は、高い社会的関心と評価を得た。本学が平成17~19年度にかけて実施した「地域創成学生参画教育プログラム」に参加した学生は、フィールドでの実習・活動を通して大きく成長し、総合科学である農学教育が質的に向上した(表20)。

表20. 地域創成教育プログラムに対する受講生の評価

事項	平成17年度	平成18年度
シラバスの記載(成果)の達成度	8.3	13.0
問題解決の知識・技法の習得度	10.7	20.0
地域社会の課題に対する理解度	15.0	25.2
他の関連科目に対する受講希望	23.2	27.0
講義形式以上の学習意欲の高揚	31.9	28.5
授業科目に参加(履修)する価値	35.9	44.4

備考: 数値は、本プログラムの目的に「よく当てはまる」と回答した受講生の割合(%)を示す。

(出典: 佐賀大学地域創成型学生参画教育プログラム推進委員会編「大学教育と地域創成—佐賀大学の教育実践—」p18)

(分析結果とその根拠理由)

社会貢献型の教育活動は非常に活発になされており、参加者・享受者の満足度は高い。

資料B-1-3-1 科目等履修生の受講者数  
 資料B-1-3-2 公開講座参加者からのコメント例  
 資料B-1-3-3 ネット授業履修者からのコメント例

観点B-1-④： 改善のための取組が行われているか。

**農学部** B-1-④

(観点に係る状況)

正規課程の学生以外に対する教育活動は多面的に実施しているが、人員と経費の削減が続いているため、特定の教職員の負担が過重になっている。この課題を解決し、より良い活動にするための取組みがなされているが、十分とは言えない。

(分析結果とその根拠理由)

改善に向けた取組は、十分とは言えない。



## 1 大学の目的

観点1-1-②： 大学院を有する大学においては、大学院の目的（研究科又は専攻の目的を含む。）が、明確に定められ、その目的が、学校教育法第99条に規定された、大学院一般に求められる目的から外れるものではないか。

#### 農学研究科 1-1-②

（観点に係る状況）

本研究科及び各専攻の教育目的は、表1のように佐賀大学大学院農学研究科規則第1条の2及び第2条の2にそれぞれ記載しており、その内容は、学校教育法第99条第1項「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。」に規定された、大学院一般に求められる目的から外れるものではない。

表1. 佐賀大学大学院農学研究科規則（研究科及び専攻の目的）

第1条の2	研究科は、科学技術の高度化・情報化・国際化に伴う社会の要求に応えるため、学部教育の幅広い基礎学力を基礎とし、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者及び高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人を養成することを目的とする。
第2条の2	(1) 生物生産学専攻 生産科学及び環境情報工学の領域において、高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人を養成すること。 (2) 応用生物科学専攻 応用生物学及び生物化学の領域において、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等を養成すること。

（出典：平成19年度学生便覧 p337）

（分析結果とその根拠理由）

本研究科及び専攻の目的は、佐賀大学大学院農学研究科規則第1条の2及び第2条の2に記載しており、この内容は学校教育法99条に規定された大学院一般の目的から外れるものではない。

観点1-2-①： 目的が、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているとともに、社会に広く公表されているか。

#### 農学研究科 1-2-①

（観点に係る状況）

農学研究科の目的は、学生便覧（資料1-2-1-1）及び大学院履修案内（資料1-2-1-2）に記載されており、冊子体で全教職員に配布し、周知を行っている。

農学研究科の学生に対しては、学生便覧及び大学院履修案内を、入学時の農学部ガイダンスあるいは農学研究科ガイダンスの際にそれぞれの全入学生に配布し、周知を行っている。また、佐賀大学農学部のホームページ（資料1-2-1-3）にも農学研究科の目的や具体的な活動方針を記載し、社会に広く公表している。

教職員及び学生がどの程度農学研究科の目的等を周知しているかについては、学生アンケート（資料1-2-1-4）及び教職員アンケート（資料1-2-1-5）を行っている。この学生アンケート調査では、農学研究科において本学の目的の周知度の高い群は僅か5%程度、各専攻の教育目的については約15%程度であり、周知度はかなり低い。一方、教職員については、周知度の高い群はアンケート回答者の50%以上であるが、教職員であれば周知度100%に近いのが当然であるので、周知度を高める取り組みが必要である。

（分析結果とその根拠理由）

農学研究科の目的は、種々の大学案内、大学概要などの刊行物を教職員・学生に配布することで周知を図り、特に学生には入学時のガイダンスなどで周知の徹底を図っている。また、佐賀大学農学部のホームページに記載することで、社会に広く公表している。しかし、学生及び教職員の周知度は高いとは言えず、今後周知度を高くする取り組みを行う必要がある。

資料1-2-1-1	平成19年度学生便覧 p337
資料1-2-1-2	平成19年度大学院履修案内 p8～11
資料1-2-1-3	佐賀大学農学部HP（農学部概要、入試情報） <a href="http://www.ag.saga-u.ac.jp/">http://www.ag.saga-u.ac.jp/</a>
資料1-2-1-4	平成19年度学生対象アンケート報告書 p44
資料1-2-1-5	平成18年度教職員対象アンケート p5

## 2 教育研究組織（実施体制）

観点2-1-③： 研究科及びその専攻の構成（研究科，専攻以外の基本的組織を設置している場合には，その構成）が，大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

### 農学研究科 2-1-③

（観点に係る状況）

農学研究科は，生物生産学専攻，応用生物学専攻の2専攻から組織されている。それぞれが，本研究科の教育・研究目的・目標に基づいた9講座・39研究分野から構成され（表2），教員も学生定員に合わせて各専攻にバランスよく配置されていることから，大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切な教育研究組織になっている。

（分析結果とその根拠理由）

農学研究科の専攻・講座の構成は，2専攻・9講座・39研究分野からなり，教員も学生定員に合わせて各専攻にバランスよく配置されていることから，大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

農学研究科の教育研究組織（平成19年5月現在）

専攻	講座	教育研究分野	教員数	学生定員
生物生産学専攻	資源社会管理学	地域資源学，環境社会学，農業経済学，★海浜台地政策学	5	20
	生産生物学	作物生態生理学，熱帯作物改良学，施設農業生産学，動物生産学，資源循環フィールド科学，★海浜台地生産生態学	10	
	生産情報科学	生産システム情報学，利水情報工学，生産基盤情報工学	3	
	生産環境工学	地圏環境学，浅海干潟環境学，農業生産機械学，★海浜台地生産機能学	6	
応用生物学専攻	生物工学	遺伝子工学，細胞工学，種苗生産学，遺伝資源学，育種学	5	30
	生物調節学	土壌環境学，植物病制御学，植物ウイルス病制御学	5	
	動物資源学	線虫学，害虫制御学，システム生態学，動物行動生態学	5	
	生物機能化学	生化学，機能高分子化学，応用微生物学，☆分子細胞生物学	5	
	生物資源利用化学	生物資源化学，生物資源利用学，食糧化学，食糧安全学，食品栄養化学，★マリンバイオ	7	

★印は海浜台地生物環境研究センターの教員，☆印は総合分析実験センターの教員の担当分野

（出典：平成20年度佐賀大学農学研究科履修案内）

観点2-1-⑤：大学の教育研究に必要な附属施設、センター等が、教育研究の目的を達成する上で適切に機能しているか。

## 農学部附属施設

### 附属資源循環フィールド科学教育研究センター

(観点に係る状況)

全学的な附属施設、センター等（例：附属図書館、保健管理センター、総合分析実験センター、総合情報基盤センター、留学生センター、低平地研究センター、海浜台地生物環境研究センター、高等教育開発センター他）を設置している。これらのセンターは、全学部・研究科に関わる教育研究を支えている。農学研究科は、全学的な附属施設、センター等と連携を保ちながら、研究科の教育に活用している。

農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター（教員4人）は、主に農学部・研究科の学生を対象としたフィールド科学としての農学教育の実践と研究を担っているが、他学部の学生（平成18年度：文化教育学部1人、経済学部3人、理工学部7人、平成19年度：文化教育学部18人、経済学部37人、理工学部52人、医学部5人）に対しても農業に関する基本的かつ実践的な教育を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

各種全学的な附属施設、センター等及び農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターと緊密に連携しながら、農学研究科における教育と研究が実践されている。

観点2-2-①： 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っているか。

### 農学研究科 2-2-①

(観点に係る状況)

農学研究科では、研究科長(学部長兼任)及び研究科を担当できる資格を持つ教授、准教授、講師及び助教より構成される研究科委員会(表3)を設置している。この委員会では、研究科委員会規程(資料2-2-1-1)により、研究科における教員人事及び教育課程の編成、学生の入学、修了、学位授与など修士課程の教育活動に係る重要事項を毎月1回定例的(資料2-2-1-2)に、必要に応じて臨時に開催し、審議している。

表3. 農学研究科委員会の構成(平成19年5月1日現在)

研究科長(兼任)	教授	准教授	講師	助教
1	29	20	1	1

\*研究科長を含む

(分析結果とその根拠理由)

研究科委員会は、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を毎月1回、必要に応じて臨時に行っている。

資料2-2-1-1 農学研究科委員会規程

資料2-2-1-2 平成18、19年度農学部研究科委員会議事録

観点2-2-②： 教育課程や教育方法等を検討する教務委員会等の組織が、適切な構成となっているか。また、必要な回数の会議を開催し、実質的な検討が行われているか。

## 農学研究科 2-2-②

### (観点に係る状況)

農学部では農学部教育委員会（資料 2-2-2-1）の中に大学院教育小委員会を設置し、農学研究科の教育課程の編成や教育方法等の改善に係る重要事項を審議している。その委員会は、各専攻（4つの系）から選出された教員4人からなり、バランスのよい適切な構成となっている。

大学院教育小委員会は、毎月1回定期的に、必要に応じて臨時に開催され、大学院教育課程の編成や教育方法等に関する実質的な検討を行っている(表4)。

また、本委員会の審議・決定事項等は研究科委員会で逐次報告され、公正に審議・決定されている(資料2-2-2-2)。

表4. 平成18, 19年度における大学院教育小委員会の検討事例

1 大学院履修案内の内容の検討 a) 教育目標と対応講義の策定 b) 履修モデルの策定 c) 専攻が目指す人材養成の検討 d) 社会人対象の夜間開講科目の検討と設置
2 大学院設置基準の改正に伴う佐賀大学大学院農学研究科規則の一部改正（規則）
3 転専攻，転学群の規則策定（規則）
4 指導教員変更に関する規則策定（規則）
5 大学院における教員養成理念の策定
6 佐賀大学大学院農学研究科長期履修学生に関する内規の作成（内規）
7 履修細則の一部改正（細則）

(出典：平成18, 19年度大学院教育小委員会議事録)

### (分析結果とその根拠理由)

教育課程や教育方法等を検討する大学院教育小委員会の組織は、各専攻から選出された教員からなり、適切な構成となっている。また、本委員会は毎月1回定期的に、必要に応じて臨時に開催され、実質的な検討が行われている。

資料2-2-2-1 農学部教育委員会規程

資料2-2-2-2 平成18, 19年度農学研究科委員会議事録

### 3 教員及び教育支援者

観点3-1-①： 教員組織編制のための基本的方針を有しており，それに基づいて教員の適切な役割分担の下で，組織的な連携体制が確保され，教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされているか。

### 農学研究科 3-1-①

(観点に係る状況)

農学研究科では，教育と研究は一体であるという基本方針の下に，修士課程の教育研究の目的・目標を達成するため，2専攻9講座(表2)で構成されている。講座単位あるいは専攻及び研究科単位で発議された研究教育上の重要な課題，教育研究分野の改廃及び人事などは，まず各該当する専攻委員会で審議され，基本計画委員会(資料3-1-1-1)あるいは人事委員会(資料3-1-1-2)を経由して，最終的に研究科委員会(資料3-1-1-3)で審議・決定されており，問題ある場合は各専攻に戻して再検討するなど，組織的に公平かつ責任ある連携体制を確保している。

(分析結果とその根拠理由)

本研究科は，教育と研究は一体であるという基本方針に基づき2専攻9講座で構成され，講座，専攻，関連委員会及び研究科委員会の間で組織的な連携体制が確保されると同時に，教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編成となっている。

資料3-1-1-1 農学部基本計画委員会規程

資料3-1-1-2 農学部人事委員会内規

資料3-1-1-3 農学研究科委員会規程

観点3-1-③： 大学院課程（専門職学位課程を除く。）において、必要な研究指導教員及び研究指導補助教員が確保されているか。

### 農学研究科 3-1-③

（観点に係る状況）

本研究科では佐賀地域に立脚しながら、地球的規模で農学を考えることのできる幅広い視野、高度な専門的知識、理解力・実践力等を備えた国際性豊かな人材の育成を目的としており、この目的のために、表4に示すように50人を超える専任教員が各専攻・講座に配置され、研究指導教員及び研究指導補助教員として研究指導に携わっている。また、これらの専任教員は、それぞれの研究分野に関する講義及び特別研究を担当し（資料3-1-4-1）、非常勤講師は平成19年度では非常勤講師削減の方針に沿って実績は0であるが、平成18年度の実績は5人で主に教育の支援・補助を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本研究科の教育研究目的・目標に沿って、教育・研究が可能な50人を超える教員が研究指導教員及び研究指導補助教員として確保されている。

表5. 農学研究科の大学院担当教員数（平成19年5月現在）

専攻	講座数	教育研究分野数	大学院担当教員数					合計
			教授	准教授	講師	助教	非常勤講師	
生物生産学専攻	4	17	14	10(1)	0	0	0	24
応用生物科学専攻	5	22	15	10	1	1	0	27

（ ）内の数値は、外国人教員数を示す。

資料3-1-4-1 平成19年度大学院履修案内 p15～17

観点3-1-⑤：大学の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられているか。

#### 農学研究科 3-1-⑤

(観点に係る状況)

農学研究科では、教育研究の活性化及び教育研究水準の維持向上を図るために、教員選考基準に基づき（資料3-1-5-1）広く国内外に対して公募要領（資料3-1-5-2）を公表し、完全公募制により優秀な教員の確保に努めている。研究科の専任教員の年齢構成は、50代がやや多いものの、ほぼ均等な年齢構成（表6）となっている。

また、学会賞を受賞するなど勤務実績が優秀な教員には特別昇給制度を利用して、学部長推薦により昇給させている（資料3-1-5-4）。

表6. 農学研究科教員の年齢構成（平成19年5月現在）

職	年 齢				
	30歳以下	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上
教授	0	0	1	15	13
准教授	0	3	14	3	0
講師	0	1	0	0	0
助教	0	1	0	0	0
合計	0	5	15	18	13

(分析結果とその根拠理由)

農学研究科では、外国人教員への配慮等がなされた教員選考規程を整備し、この規程に基づいて完全公募制により優秀な教員の確保を行い、年齢構成を配慮して採用するなど、教員組織の活性化を図っている。また、特別昇給など、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられている。

資料3-1-5-1 佐賀大学教員選考基準

資料3-1-5-2 農学部教員候補者の推薦依頼に関する申合せ

資料3-1-5-4 教育職（一）の適用を受ける職員の特別給与について（学長依頼文）

観点3-2-①： 教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。特に、学士課程においては、教育上の指導能力の評価、また大学院課程においては、教育研究上の指導能力の評価が行われているか。

### 農学研究科 3-2-①

(観点に係る状況)

農学部では、国立大学法人佐賀大学教員選考基準（資料 3-2-1-1）及び佐賀大学農学部教員選考規程（資料 3-2-1-2）に基づいた教員の採用・昇任を行っている。すなわち、学内あるいは学外の応募者について、履歴書、研究業績目録、研究業績説明書等の提出を義務付け（資料 3-2-1-3）、教授会で選出された5人の教員選考委員（5人の教授）により、学士課程における教育上の指導能力の評価を行った上で、教授会の議に基づき、教員候補者を決定している。

修士課程の教育研究担当者は、より高度な研究水準を維持するため博士の学位を有することは勿論、主指導・副指導の資格として指定したレフェリー付きの論文数等をクリアーすることを条件とするなど（表7）、大学院課程における教育研究上の指導能力の厳格な評価を行い、研究科委員会の議に基づき採用者あるいは担当者を決定している（資料 3-2-1-4）。

なお、本学の博士課程の担当者は鹿児島大学大学院連合農学研究科の資格審査委員会において、別途主指導あるいは副指導教員の資格審査を受けることになっているが、この資格基準（資料 3-2-1-5）も本学の修士課程の主指導あるいは副指導資格と全く同じ厳格な水準にある。

表7. 農学研究科教員資格判定基準

主指導教員	修士課程の研究指導及び講義を担当し、学位論文審査の主査とすることができる。 論文1（レフェリー付き論文）が20編以上「ただし、第1著者（Corresponding Author を含む）である論文が10編以上あること」で、最近5年間の業績が5編以上あること。
副指導教員	修士課程の研究指導及び講義を担当する。 論文1（レフェリー付き論文）が12編以上「ただし、第1著者（Corresponding Author を含む）である論文が6編以上あること」で、最近5年間の業績が5編以上あること。

(出典：佐賀大学大学院農学研究科教員資格審査判定基準の申合せ)

(分析結果とその根拠理由)

本学教員の選考は、国立大学法人佐賀大学教員選考基準に基づいた佐賀大学農学部教員選考規程に則って、教授会の議に基づき、教員候補者を決定している。さらに、修士課程の担当者はより高度な研究水準を維持するため、博士の学位を有することは勿論、指定したレフェリー付きの論文数等をクリアーすることを条件とするなど、教育研究上の指導能力のより厳格な評価を行っている。

資料 3-2-1-1 国立大学法人佐賀大学教員選考基準  
資料 3-2-1-2 佐賀大学農学部教員選考規程

- 資料 3-2-1-3 農学部教員候補者の推薦依頼に関する申合せ
- 資料 3-2-1-4 佐賀大学大学院農学研究科教員選考基準
- 資料 3-2-1-5 鹿児島大学大学院連合農学研究科ホームページ (教員資格審査)  
[http://homeugs.agri.kagoshima-u.ac.jp/2teacher\\_new.html](http://homeugs.agri.kagoshima-u.ac.jp/2teacher_new.html)

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

### 農学研究科 3-2-②

(観点に係る状況)

本学部では、1993年4月に農学部自己点検・評価委員会を発足させ、1994年からほぼ4年ごとに自己点検評価を行ってきた。同委員会は2002年4月から農学部評価委員会として、学部担当及び研究科担当教員の教育・研究業績、社会貢献、国際貢献、学内運営等各種の評価活動を行ってきた(資料3-2-2-1, 3-2-2-2)。また、平成16年度から新たに農学部個人評価に関する実施要項(資料3-2-2-3)を策定し、当年度から教育研究活動等に関する個人評価を実施している(資料3-2-2-4)。

佐賀大学には、教育功績者を表彰する制度(資料3-2-2-5)があり、学内外で優れた教育活動を行った教員数人を毎年、佐賀大学学長へ推薦している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部には評価委員会が設置され、評価方法等を検討すると同時に、定期的に研究科担当教員の教育活動の評価を行い、また同委員会は大学院の学生による授業評価を実施し、教育の改善に取り組み、さらに教育に大きく貢献した者について表彰するなど、教員の教育活動に関する評価を定期的実施するための体制が構築され、把握された事項に対して適切な取組がなされている。

資料3-2-2-1	農学部評価委員会規程
資料3-2-2-2	佐賀大学農学部教員教育研究業績総覧(2002年度, 2006年度版)
資料3-2-2-3	佐賀大学農学部における教員の個人評価に関する実施要項(試行)
資料3-2-2-4	平成16年度教員個人評価報告書(試行)
資料3-2-2-5	佐賀大学教育功績等表彰規程 <a href="http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/kisoku.htm">http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/kisoku.htm</a>

観点3-3-①: 教育の目的を達成するための基礎として、教育内容等と関連する研究活動が行われているか。

農学研究科 3-3-①

(観点に係る状況)

研究科教員は、所属する各教育研究分野において活発な研究活動をしており、その研究活動の成果を自身が担当する専門授業科目の授業内容に反映させている。

表8, 9は、研究科教員が大学院で授業するとき授業内容に反映させている平成18年度及び19年度の研究タイトルや研究内容(抜粋)である。全てを紹介するとかなりの紙面を割くことになるので、数例しか載せていないが、ほぼ全ての教員が授業に自分の研究内容を取り入れている。

(分析結果とその根拠理由)

ほとんどの授業科目において、研究科教員の研究活動が盛り込まれており、授業の内容が教育の目的を達成するための基礎となる研究活動の成果を反映したものになっている。

表8. 研究活動を授業科目に生かした例(平成18年度)

専攻等	教員名	研究活動及び研究業績等	授業科目
生物生産学専攻	和田康彦	(研究活動)動物遺伝育種学に関する研究 (論文, 著書等)論文「Identification of 5' -UTR transcript variants of the porcine liver X receptor alpha (LXR $\alpha$ )」J. Anim. Genet. 34(2) : 3-9 (2006)	動物生産学特論
	五十嵐勉	(研究活動)農業・農村開発及び景観保全をめぐる地域課題 (論文, 著書名)有明海・八代海沿岸域エコトーンにおける文化的景観の保全(2) -有明海北西部における海苔養殖漁家の複合的生業-佐賀大学有明海総合研究プロジェクト成果報告集, 第2巻, 2006	農村地理学特論
	稲葉繁樹	(研究活動)ゴム履帯走行装置に関する研究 (論文, 著書等)ゴム履帯の走行抵抗に関する研究(第3報) -転輪荷重の実測による走行抵抗シミュレーションの検証-農業機械学会誌 65(1), 99-105	生産システム工学特論
	内田 進	(研究活動)穀物の乾燥・貯蔵に関する研究 (論文, 著書等)農業資源と次世代エネルギー. 佐賀大学科学技術共同開発センター科学技術シンポジウム, 佐賀市, 2006年7月	生産情報処理学特論
応用生物科学専攻	鈴木信彦	(研究活動)昆虫と植物の相互作用に関する研究 (論文, 著書等)Suzuki, N. and Y. Ohnishi (2006) Significance of the simultaneous growth of vegetative and reproductive organs in the prostrate annual <i>Chamaesyce maculate</i> (L.) Small (Euphorbiaceae). Ecol. Res. 21(1): 91-99.	システム生態学特論
	大島一里	(研究活動)植物ウイルスの分子進化に関する研究 (論文, 著書等)1. Mutations in Turnip mosaic virus genomes that have adapted <i>Raphanus sativus</i> 2. Comparisons of the genetic structure of populations of Turnip mosaic virus in West and East Eurasia	植物病学特論
	光富 勝	(研究活動)キチン質分解酵素の構造と機能に関する研究 (論文, 著書等)Kezuka Y., M. ohishi, Y, Itoh, J. Watanabe, M. Mitsutomi, T. Watanabe and T. Nonaka, Structural studies of a	食糧化学特論

		two-domain chitinase from <i>Streptomyces griseus</i> HUT6037. <i>Journal of molecular Biology</i> , 358, 472-484 (2006)	
	渡邊啓一	(研究活動) タンパク質の構造と機能に関する研究 (論文, 著書等) Dong, D., T. Ihara, H. Motoshima and K. Watanabe. Crystallization and preliminary X-ray crystallographic studies of a psychrophilic subtilisin-like protease from Antarctic <i>Pseudoalteromonas</i> sp. strain AS-11. <i>Acta Crystallographica Section F Structural Biology and Crystallization Communications</i> , 61, 308-311, 2005	生化学特論

表9. 研究活動を授業科目に生かした例 (平成19年度)

生物生産学専攻	白武義治	(研究活動) アジアの農産物市場と市場対応に関する研究 (論文, 著書等) 1. Significance of Agricultural Farmer Cooperatives in Rural Economy –A Case Study in Malsiripura Village in Sri Lanka-. <i>REVIEW OF AGRICULTURAL ECONOMICS</i> 56-1, 121-132, 2005. 2. The Role of Small Scale Tea Industries as a Method of Rural Development: A Field Study in Kalutara District in Sri Lanka. <i>REVIEW OF AGRICULTURAL ECONOMICS</i> 53-2, 59-72, 2002.	農業経済政策特論
	有馬 進	(研究活動) 在来種を用いた緑化に関する研究 (論文, 著書名) 有馬進・澤田翔平・野間貴文・鄭紹輝: 在来種緑化用ヨモギの根茎の萌芽について. <i>日本作物学会九州支部会報</i> 71, 485-88, 2005年5月	作物生態生理学特論
	瀬口昌洋	(研究活動) 有明海奥部における貧酸素水塊の発生機構に関する研究 (論文, 著書名) 郡山益実・瀬口昌洋・石谷哲寛・加藤治: 有明海奥部西岸域における貧酸素水塊発生時の鉛直拡散係数及び酸素消費速度について. <i>水工学論文集</i> , 51, 1297-1302, 2007	浅海環境工学特論
	長 裕幸	(研究活動) 土壌物理に関する研究 (論文, 著書名) 土壌物理学 共訳 築地書館 (2006)	土壌物理学特論
応用生物科学専攻	石丸幹二	(研究活動) 植物二次代謝成分の化学的解析に関する研究 (論文, 著書等) 1. セイタカアワダチソウの組織培養とポリフェノール類生産 <i>日本食品化学学会誌</i> , 13, 136-140 (2006)	植物化学特論
	近藤榮造	(研究活動) 線虫の生態と整理に関する研究 (論文, 著書等) Kuwata, R., M. Shigematsu, T. Yoshiga, M. Yoshida and E. Kondo (2006) Phylogenetic analyses of Japanese steinernematid nematodes and their associating <i>Xenorhabdus</i> bacteria. <i>Jpn. J. Nematol.</i> 36, 75-85.	線虫学特論
	藤田修二	(研究活動) 青果物のポリフェノール酸化酵素に関する研究 (論文, 著書等) 1. Purification and characterization of chlorogenic acid oxidase from edible burdock ( <i>Arctium lappa</i> L.). <i>Food preservation Science</i> , 32, 275-281 (2006).	食品生化学特論
	柳田晃良	(研究活動) 栄養化学の最近の進展について概説した。 (論文, 著書等) Yanagita T., K. Nagao, N. Inoue and Y. M. Wang. Conjugated linoleic acid in hypertension. <i>Advances in conjugated linoleic acid research</i> 111., ed. by M. P. Yurawecz, J. K. G. Kramer, O. Gudmundsen, M. W. Pariza, S. Banni. (AOCS Press, USA). 2006, 171-181.	栄養化学特論

観点3-4-①： 大学において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。また、TA等の教育補助者の活用が図られているか。

### 農学研究科 3-4-①

(観点に係る状況)

農学部総務係(5人の職員で構成)、学務部教務課大学院係(3人の職員で構成)及び資源循環フィールドセンター(3人の職員で構成)が修士課程及び連合農学研究科の課程をそれぞれ支援している(資料3-4-1-1)。また、学部4人、附属資源循環フィールド科学教育研究センターに5人配置された技術職員は、大学院課程の実験・実習及び演習等の授業等に教育支援者として従事している(資料3-4-1-1)。さらに、多数の大学院修士及び博士課程の学生がTAとして学部に配置され、実験、実習、演習等の教育補助業務(表10)を行うと同時に、教員と学部学生のパイプ役としても重要な役割を果たしている。

表10. 平成18, 19年度TAの活用状況

年度	項目	実験補助項目					合計
		実験	実習	演習	講義	卒業研究	
18	TA延べ人数	109	32	50	36	69	296
	科目数	15	8	16	13	21	73
19	TA延べ人数	82	18	47	22	54	223
	科目数	17	7	12	12	22	70

(分析結果とその根拠理由)

合計8人の事務職員と9人の技術職員が研究科の教育課程における実験、実習、演習等の教育支援を行っている。また、多数の大学院修士の学生をTAとして学部に配置し、教育補助を行っていることから、研究科の教育課程を展開するのに必要な事務職員、技術職員等が教育支援者として、TAは教育補助者として適切に配置され、十分な活用が図られている。

資料3-4-1-1 佐賀大学HP 佐賀大学職員名簿

<http://www.saga-u.ac.jp/jinji/gakunai/meibo/index.htm>

#### 4 学生の受入

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか。

#### 農学研究科 4-1-①

（観点に係る状況）

農学研究科の教育目的は、本学の理念及び教育研究の基本方針に従って、佐賀地域に立脚しながら、科学技術の高度化・情報化・国際化に伴う社会の要求に応えるため、高度な科学技術・専門知識を持った創造性豊かな人間味あふれる研究者・専門職業人を養成することである。この教育目的に沿って、表11に示す学生の受け入れの方針としている。また、本研究科は2専攻で構成されており、表12に示すように、各専攻のアドミッションポリシーも明確に定めている。

このアドミッションポリシーは、大学院の募集要項（資料4-1-1-1）を学内の教職員に配布することで周知させている。また、佐賀大学農学部ホームページ（資料4-1-1-2）にも掲載しており、学内外に広く公表・周知させている。

表11. 佐賀大学大学院農学研究科の求める学生像

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 学部教育の幅広い基礎学力を基盤として、さらに高度な科学技術・専門知識を持った創造性豊かな人間味あふれる研究者・高度専門職業人を目指す人</li><li>2 人間社会の持続的発展に必要な環境・生命・食料等の研究に積極的に取り組もうとする人</li><li>3 永続的食料生産を可能にする生物生産システムや経済社会システムの創造に関する研究に意欲的な人</li></ol> |
|--|

（出典：平成20年度佐賀大学大学院学生募集要項 p9～10）

表 12. 各専攻のアドミッションポリシー

生物生産学 専攻	<p>&lt;教育目的&gt;</p> <p>地球規模の環境問題，食料危機，食品の安全性等の問題を総合的にとらえ，社会科学，生物学，工学及び情報科学を活用して解決できる高度専門職業人・研究者の養成です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域社会における生物資源の意義を理解する。</li> <li>2 食料生産の理論及び技術を修得する。</li> <li>3 豊かな地域社会環境の整備及び保全を实践する。</li> </ol> <p>また，これらの目標の達成に向けて，多様な分野で活躍できる想像力・自立力を養うための教育課程及びカリキュラムを編成しています。</p>
	<p>&lt;求める学生像&gt;</p> <p>本専攻の教育理念を実現するために，次のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地球温暖化，資源のリサイクル，水や土壌の汚染等の環境問題に関心がある人</li> <li>2 人類の存続のために不可欠な生物の生産や持続的社会的形成に関心がある人</li> <li>3 世界的な視野を養い，国際社会で活躍したい人</li> <li>4 人と自然の共存に関心がある人</li> </ol>
応用生物科学専攻	<p>&lt;教育目的・目標・方針&gt;</p> <p>生物資源の機能解析，保護及び活用は，人類の存続に直結する重要な教育及び研究のテーマであり，生命，食料，健康，環境，農業に関する諸問題を解決するための根幹をなす分野です。本専攻は，バイオサイエンス分野の幅広い知識及び研究手法を身に付け，学術分野又は産業分野で活躍できる応用力の高い研究者及び指導者の育成を教育目的とします。</p> <p>このために，微生物，植物から動物全般にわたる広範な生物資源を教育と研究の対象にしており，生物資源の探査，制御，機能解析，バイオテクノロジーによる応用と新素材の開発等について，広範な教育と研究を行います。</p>
	<p>&lt;求める学生像&gt;</p> <p>本専攻の理念を実現するために，次のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域社会や国際社会に大きく貢献しようとする希望と情熱を持つ人</li> <li>2 将来の様々な問題の解決に果敢に挑戦する人</li> <li>3 バイオサイエンスを学ぶ上で必要な適性と基礎学力がある人</li> </ol>

(分析結果とその根拠理由)

アドミッション・ポリシーは明確に定められ，これらの内容について大学院の募集要項及び佐賀大学農学部ホームページに掲載され，学内外に広く公表，周知されている。

資料 4-1-1-1 平成 20 年度農学研究科大学院募集要項 p75～76

資料 4-1-1-2 佐賀大学ホームページ (入試情報)

<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>

観点4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実質的に機能しているか。

#### 農学研究科 4-2-①

（観点に係る状況）

本研究科では，入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿い，一般選抜においては，筆記試験（英語及び専門科目），面接及び提出書類（成績証明書，志望理由書等）により，学力，思考能力，独創性，人間性及び勉強意欲などを総合評価し選抜している（資料4-2-1-1）。この方針に沿って，修学に必要な学力，能力及び専門分野の内容などについて口述試験及び面接を行い，求める学生像にふさわしい人物を選抜している。

（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーに沿って，適切な学生の受入れ方法を採用し，実質的に機能している。

資料4-2-1-1 平成20年度佐賀大学大学院農学研究科募集要項 p57～68

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）において、留学生、社会人、編入学生の受入等に関する基本方針を示している場合には、これに応じた適切な対応が講じられているか。

#### 農学研究科 4-2-②

##### （観点に係る状況）

本研究科では、生涯教育の高まりや国際化の中、求める学生像にふさわしい学生を選抜するために、一般選抜の他に社会人特別選抜と外国人留学生特別選抜等を実施している。すなわち、本研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿い、口述試験、面接及び提出書類（成績証明書、志望理由書、研究業績書、研究計画書等）により、求める学生像にふさわしい外国人留学生と社会人（資料4-2-2-1）を選抜している。

さらに、工学系と農学の両方の立場の知識と思考力を持ち、帰国後環境について世界的な視野で総合的に洞察できる留学生を育成するため、「地球環境科学特別コース（前身は、国際環境科学特別コース）」を工学系研究科と共同で設置している。なお、このコースの選抜は、受験者が外国にいる場合が多く、面接が困難なため、書類審査（履歴書、成績証明書、志望理由書、研究業績書、研究計画書等）の他にアドミッション・ポリシーに沿い、受験生の専門分野の基礎学力を試すため、Eメールを利用したネットインタビューを行っている。このことは募集要項（資料4-2-2-2）に掲載し、受験生に周知させている。

##### （分析結果とその根拠理由）

本研究科では、多様で広範な人材を受け入れるため、社会人特別選抜と外国人留学生特別選抜を実施し、研究科のアドミッション・ポリシーに沿った適切な選抜方法が講じられている。

資料4-2-2-1 平成20年度佐賀大学大学院農学研究科募集要項 p57～68

資料4-2-2-2 平成20年度佐賀大学大学院地球環境科学特別コース学生募集要項 p6

観点4-2-③： 実際の入学者選抜が適切な実施体制により，公正に実施されているか。

#### 農学研究科 4-2-③

(観点に係る状況)

農学研究科長を総括責任者として，農学部入試委員会の中にある院入学試験関係委員会が入学者選抜の実施に関する基本的事項及び実施に関する重要事項を審議・決定し，入学試験により選定された合格候補者について，専攻，研究科委員会の議を経て合否判定が行われる(資料4-2-3-1)。

入学試験問題の作成は入試委員会のもとに置かれた各専門委員会が担当し，十分な教育研究経験を有する教員により非公開で作成され，面接，口頭試問においては試験委員を数人で構成(資料4-2-3-2)することにより，公正な合否判定が行えるよう配慮している。

(分析結果とその根拠理由)

入学者選抜に係わる実施体制は，農学部入試委員会の中にある院入学試験関係委員会を中心に構築されており，組織間の連携も図られ，入学者選抜が適切な実施体制により，公正に実施されている。

資料4-2-3-1 平成20年度大学院農学研究科入学試験実施要領

資料4-2-3-2 平成20年度大学院入学試験関係委員割振表

観点4-2-④： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

#### 農学研究科 4-2-④

（観点に係る状況）

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生が入学しているかどうかの検証は、大学院一般選抜及び社会人・外国人留学生特別選抜小委員会、入学試験問題作成委員会ならびに各専攻・学系において継続的に取り組んでおり、学生の成績や授業評価を参考にして、出願資格や入学試験問題の内容（資料 4-2-4-1）や合否判定基準（資料 4-2-4-2）について改善策を継続的に講じてきている。

（分析結果とその根拠理由）

各専攻・学系及び入学試験関係委員会において、本研究科のアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が行われているかどうか、継続的に検証されており、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

資料 4-2-4-1 平成 20 年度佐賀大学大学院農学研究科募集要項 p59～67

資料 4-2-4-2 佐賀大学大学院農学研究科の入学試験合否判定基準

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

#### 農学研究科 4-3-①

(観点に係る状況)

平成16年度から19年度の専攻別の入学者数は、表13のとおりである。本研究科の実入学者数の入学定員に対する割合は、この4年間の平均で0.91となっている。

表13. 農学研究科（修士課程）の入学者数

専攻	入学定員	入学者数			
		16年度	17年度	18年度	19年度
生物生産学専攻	20	17(4)	28(2)	15(1)	18(6)
応用生物科学専攻	30	25(0)	32(1)	22(1)	25(1)
合計	50	42(4)	60(3)	37(2)	43(7)

注：( )内は留学生で内数

(出典：平成19年度佐賀大学農学部大学院農学研究科概要)

(分析結果とその根拠理由)

この4年間の入学状況は、実入学者数が入学定員を大幅に超過、又は大幅に下回っておらず、入学定員と実入学者の関係は適正である。

## 5 教育内容及び方法

観点5-4-①： 教育の目的や授与される学位に照らして、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

#### 農学研究科 5-4-①

(観点に係る状況)

今まで授業科目は、全て選択であったが、平成18年度に農学研究科の修了要件(表14)に示すように大学院の全学生が修得すべきコア科目(4単位)と各系が修得すべき基礎必修科目(2単位)を新たに設けた。すなわち、研究科必修科目(4単位)、専攻必修科目(4単位)、講座必修の「専門教育科目」及び講座の「演習科目」を定めたカリキュラム体系となっている。また、各系の教育目的に沿った履修モデル(観点5-5-1,表参照)を学生に提示し、学生に分かりやすいカリキュラム体系にしている。

これらの履修モデルに沿って各講座がそれぞれの最新の学問分野に関する授業科目を「特論」として広く配置し、「特別研究」もバランスよく配置され、それぞれの研究テーマを通じて創造性に富んだ高度な科学技術・専門知識を持った研究者・専門職業人を養成する内容となっている(資料5-4-1-1)。

表14. 農学研究科の修了要件

平成17年度以前		平成18年度以降	
所属専攻各講座の科目	22単位以上	コア科目(必修)	4単位
		基礎必修科目	2単位
		専門教育科目	14単位以上
		特別演習(必修)	2単位
特別研究	8単位	特別研究(必修)	8単位
修了要件	30単位以上	修了要件	30単位以上

(出典：平成19年度大学院履修案内)

(分析結果とその根拠理由)

農学研究科においては、最新の学問分野に関する授業科目である「特論」と、研究者・専門職業人への人材養成を目指す「特別演習」や「特別研究」をバランスよく配置し、さらに各学系の教育目的に沿った履修モデルを学生に提示していることから、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっている。

資料5-4-1-1 平成19年度佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内 p14~19

観点5-4-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

#### 農学研究科 5-4-②

(観点に係る状況)

本研究科の教員は、その研究成果を担当する授業科目の内容に反映させている(観点3-3-1表参照)。また、多様なニーズを持つ学生を教育する一環として、修了要件である30単位中10単位を指導教員と相談の上、他専攻や他研究科が開講する科目を履修することができる制度(資料5-4-2-1)をとっている。また、社会的な要求から夜間開講の体制を整備し、社会人の受け入れを可能にしている(資料5-4-2-1)。

さらに、本修士課程修了者は鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程に進学可能であり(資料5-4-2-1)、佐賀大学大学院農学研究科の修了生に限り入学検定料を免除している。さらに、進学者にはスムーズに博士課程に入れるよう教育研究の指導をしている。留学制度(資料5-4-2-2)については、大学間学術交流協定を締結している諸外国の大学間で実施している。

(分析結果とその根拠理由)

研究活動と授業科目との間に密接な関係があり、かつ他専攻や他研究科開講科目の履修制度、留学制度、博士課程進学制度、夜間開講制度などを設けることによって、研究成果の反映、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮している。

資料5-4-2-1 平成19年度佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内 p12~13, p38

資料5-4-2-2 平成19年度佐賀大学学生便覧 p93~96

観点5-4-③： 単位の実質化への配慮がなされているか。

#### 農学研究科 5-4-③

(観点に係る状況)

農学研究科では、カリキュラム編成(資料5-4-3-1)において無理のない十分配慮された授業時間配置をとっている。大学院生には、入学時に大学院小委員会委員による履修にあたってのオリエンテーションを受けさせるとともに、指導教員の指導のもとに研究テーマを設定し、その研究内容に適した履修計画を策定させている(資料5-4-3-2)。

また、学生の授業選択の参考として大学院履修案内に講義概要(資料5-4-3-2)を、オンラインシラバス(資料5-4-3-3)に授業計画、成績評価基準を記載している。

平成20年度からは、学生の学業成績にGPAを採用し(資料5-4-3-4)、成績評価判定資料の保管、試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧なども開始した。

(分析結果とその根拠理由)

カリキュラム編成において十分配慮された授業時間配置をとっており、大学院小委員会委員や指導教員がきめ細かい履修指導をしている。また、成績評価判定資料の保管、試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始し、平成20年度からは、学生の学業成績にGPAを採用することなどから、単位の実質化への配慮が適切になされている。

資料5-4-3-1 平成19年度学年暦

資料5-4-3-2 平成19年度佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内p13

資料5-4-3-3 佐賀大学ホームページ(Live Campus)

[http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live\\_campus\\_006.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html)

観点5-5-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

## 農学研究科 5-5-①

(観点に係る状況)

表15に示すように系ごとに履修モデルを設定し、本研究科の基本理念・特色を踏まえ、それぞれの系の特性に応じた教育科目の構成を行い、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスに配慮している。すなわち、各専攻の開講科目中、学生が所属する講座の特別研究(8単位)及び指導教員の指導による授業科目を合わせて30単位以上を履修することとし、各専攻の履修モデルは全て、1年前期に12~13単位、後期に10~13単位を取得できるようにバランス良く開講している(資料5-5-1-1)。また、履修手続きは、Web(資料5-5-1-2)による履修登録としている。

本研究科の講義、演習、実験実習は基本的に全て少人数教育であり、演習科目では対話・討論型授業やフィールド型授業を実施し、学習指導に関する工夫をしている。

表15. 農学研究科における履修モデル

(生物生産科学専攻)

生産科学系(A群)履修モデル

	専 門 科 目					履修登録 単位数*
	コア科目(必修)	基礎教育科目(必修)	専門教育科目(選択)	特別演習(必修)	特別研究(必修)	
2年後期			施設農業生産学特論(B)		特別研究(A)	4
2年前期				地域資源管理学特別演習(A)	特別研究(A)	4
1年後期	作物生態生理学特論	農業経済政策特論	海浜台地政策学特論(A) 家畜飼養管理学特論		特別研究(A)	10
1年前期	応用生物科学概論		地域資源学特論(A) 環境社会学特論(A) 熱帯農業資源学特論(B) 動物生産学特論(B)		特別研究(A)	12
修了要件単位数	4	2	14	2	8	30

(A)は資源社会管理学科目、(B)は生産生物学科目

環境情報工学系(B群)履修モデル

	専 門 科 目					履修登録 単位数*
	コア科目(必修)	基礎教育科目(必修)	専門教育科目(選択)	特別演習(必修)	特別研究(必修)	
2年後期			農産機械学特論(B)		特別研究(A)	4
2年前期				生産環境工学特別演習(A)	特別研究(A)	4
1年後期	作物生態生理学特論	農業経済政策特論	環境資源学特論(B) 浅海環境工学特論(B)		特別研究(A)	10
1年前期	応用生物科学概論		リモートセンシング工学特論(B) 生産地盤工学特論(B) 土壌物理学特論(B) 農地工学特論(A)		特別研究(A)	12
修了要件単位数	4	2	14	2	8	30

(A)は生産情報科学科目、(B)は生産環境工学科目

(応用生物科学専攻)

応用生物学系（C群）

生物工学講座履修モデル

	専門教育科目			基礎共通科目（必修）	コア科目（必修）	履修登録 単位数*
	演習科目（必修）	専門教育科目（選択）	特別研究（必修）			
2年後期	生物工学演習Ⅱ		特別研究			3
2年前期	生物工学演習Ⅱ		特別研究			3
1年後期	生物工学演習Ⅰ	植物化学特論 種苗生産学特論	特別研究	応用生物科学総合講義	作物生態生理学特論	11
1年前期	生物工学演習Ⅰ	植物遺伝子工学特論 細胞工学特論 遺伝資源学特論 植物育種学特論Ⅱ	特別研究		応用生物科学概論	13
修了要件単位数	4	12	8	2	4	30

\*特別研究を1/4の単位数として計算  
演習を1/2の単位数として計算

生物調節学講座履修モデル

	専門教育科目			基礎共通科目（必修）	コア科目（必修）	履修登録 単位数*
	演習科目（必修）	専門教育科目（選択）	特別研究（必修）			
2年後期			特別研究			2
2年前期			特別研究			2
1年後期	生物調節学演習	植物病学特論 害虫制御学特論 システム生態学特論 土壌動物学特論	特別研究	応用生物科学総合講義	作物生態生理学特論	13
1年前期	生物調節学演習	土壌学特論 植物栄養調節学特論 植物感染病学特論 線虫学特論	特別研究		応用生物科学概論	13
修了要件単位数	2	14	8	2	4	30

\*特別研究を1/4の単位数として計算  
演習を1/2の単位数として計算

動物資源学講座履修モデル

	専門教育科目			基礎共通科目（必修）	コア科目（必修）	履修登録 単位数*
	演習科目（必修）	専門教育科目（選択）	特別研究（必修）			
2年後期			特別研究			2
2年前期			特別研究			2
1年後期	動物資源学演習	害虫制御学特論 システム生態学特論 動物行動生態学特論 土壌動物学特論	特別研究	応用生物科学総合講義	作物生態生理学特論	13
1年前期	動物資源学演習	線虫学特論 土壌学特論 植物栄養調節学特論 植物感染病学特論	特別研究		応用生物科学概論	13
修了要件単位数	2	14	8	2	4	30

\*特別研究を1/4の単位数として計算  
演習を1/2の単位数として計算

生物化学系 (D群)

生物機能化学講座履修モデル

	専門教育科目			基礎共通科目 (必修)	コア科目 (必修)	履修登録 単位数*
	演習科目 (必修)	専門教育科目 (選択)	特別研究 (必修)			
2 年後期	生物資源利用化学演習		特別研究			3
2 年前期	生物資源利用化学演習		特別研究			3
1 年後期	生物機能化学演習	分子細胞生物学特論 食糧化学特論	特別研究	応用生物科学総合講義	作物生態生理学特論	11
1 年前期	生物機能化学演習	生化学特論 分子生物学特論 微生物遺伝学特論 微生物学特論	特別研究		応用生物科学概論	13
修了要件単位数	4	12	8	2	4	30

\*特別研究を 1/4 の単位数として計算  
演習を 1/2 の単位数として計算

生物資源利用化学講座履修モデル

	専門教育科目			基礎共通科目 (必修)	コア科目 (必修)	履修登録 単位数*
	演習科目 (必修)	専門教育科目 (選択)	特別研究 (必修)			
2 年後期	生物機能化学演習		特別研究			3
2 年前期	生物機能化学演習		特別研究			3
1 年後期	生物資源利用化学演習	食品生化学特論 食糧安全学特論	特別研究	応用生物科学総合講義	作物生態生理学特論	11
1 年前期	生物資源利用化学演習	食糧化学工学特論 栄養化学特論 生物物理化学特論 微生物学特論	特別研究		応用生物科学概論	13
修了要件単位数	4	12	8	2	4	30

\*特別研究を 1/4 の単位数として計算  
演習を 1/2 の単位数として計算

(分析結果とその根拠理由)

研究科では、各系で履修モデルを示し、それぞれの特性に応じて講義、演習、実験、実習等をバランス良く配置し、少人数教育、対話・討論型授業、フィールド型授業など目的に応じた学習指導の多彩な工夫が凝らされていることから、教育の目的に照らして授業形態の組み合わせ・バランスは適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料 5-5-1-1 平成 19 年度佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内 p15~19

資料 5-5-1-2 佐賀大学ホームページ (Live Campus)

[http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live\\_campus\\_006.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html)

観点5-5-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

## 農学研究科 5-5-②

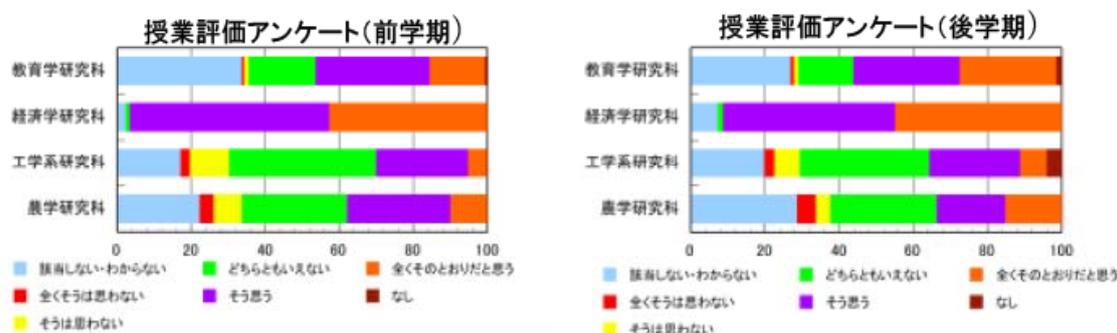
(観点に係る状況)

全科目のシラバスは、本学共通のシラバス作成要領に従って作成され、オンラインシラバスとして、ホームページに掲載している(資料5-5-2-1)。このシラバスには、担当教員名・授業科目名・開講学期・開講曜日・時限などに加えて、授業計画・履修上の注意・成績評価の方法と基準・教科書・参考書・オフィスアワーを記しており、学生が授業科目を選択する上での適切なシラバスの内容となっている。

院生は、入学時に配布する大学院履修案内(資料5-5-2-2)に掲載されている授業科目概要及び履修モデルと、オンラインシラバスにある詳しい授業内容を参考にしながら、受講科目を決めている。

なお、シラバスが学習する上で役に立っているかどうかを聞いた農学研究科学生のアンケート結果(資料5-5-2-3)について、「役に立たない」、「全く役に立たない」とする否定的意見は10~15%程度であったが、「役に立っている」、「非常に役に立っている」とする肯定的意見も35~40%と低い結果を示した(図1)。また、授業内容がシラバスに沿っているかについては、肯定的な意見が40~50%とやはり低い評価であった。この原因の一つは、農学研究科が少人数教育・個別指導が実施されているため、学生はシラバスをみる機会が少なく、教員側もシラバスに沿った型どおりの教育ができにくいことが上げられる。

図1. シラバスは、学習する上で役に立っているかどうかのアンケート調べ



(出典：平成20年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書 p28)

(分析結果とその根拠理由)

大学院履修案内にカリキュラム表、授業科目概要及び履修モデルが掲載されるとともに、オンラインシラバスにおいて詳細な各教科のシラバスが公開され、学生はこれらを参考にしながら授業科目を選択できることから、適切なシラバスが作成・公開されているが、学生によるシラバス活用度は低い。今後、学生にもっとシラバスを活用するように指導する必要がある。

資料5-5-2-1 佐賀大学ホームページ(Live Campus)

[http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live\\_campus\\_006.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html)

資料5-5-2-2 平成19年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

資料5-5-2-3 平成20年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書 p28~30

観点5-5-③： 夜間において授業を実施している課程（夜間大学院や教育方法の特例※）を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

#### 農学研究科 5-5-③

（観点に係る状況）

大学院においては、企業等に在職のまま入学を希望する社会人に対して、入学後も社会人が学びやすいように大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置を実施している。希望者には、指導教員の指導により、履修方法や授業等の実施時間帯等の履修計画を立てさせるようにしている。また、特例による夜間の授業時間は第1時限18:00～19:30とし、14単位までを課程修了に必要な単位数（30単位）に含めることができるように配慮している（資料5-5-3-1）。

（分析結果とその根拠理由）

大学院では、社会人学生の希望があれば指導教員の指導により、特例による夜間の授業を実施し、夜間開講科目14単位までを課程修了に必要な単位数に含めることなど、社会人学生に配慮した適切な時間割の設定がなされ、適切な指導体制にある。

資料5-5-3-1 平成19年度佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内 p13

観点5-6-①： 教育課程の趣旨に沿った研究指導，学位論文（特定課題研究の成果※）を含む。）に係る指導の体制が整備され，適切な計画に基づいて行われているか。

#### 農学研究科 5-6-①

（観点に係る状況）

学生ごとに所属研究室と指導教員を定め，研究テーマに関する打合せを行い，研究指導実施計画書（資料5-6-1-1）を作成し，それに基づき研究指導を実施している（資料5-6-1-2）。適宜，研究の中間報告会を実施し，複数の教員により，各学生の研究に対する助言，指導を行っている。論文執筆に当たっては，学位論文の審査委員となった複数の教員（副査として2人以上）の指導を受けている（資料5-6-1-3）。

（分析結果とその根拠理由）

研究指導，論文執筆，論文発表は，それぞれの専攻における複数の指導教員により常時，計画的かつ適切に行われていることから，教育課程の趣旨に沿った研究指導，学位論文に係る指導の体制が整備され，適切な計画に基づいて指導が行われている。

資料 5-6-1-1 研究指導の実施に関する報告書

資料 5-6-1-2 平成19年度佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内p12～13

資料 5-6-1-3 平成19年度研究科委員会記録資料（指導・審査教員氏名一覧表）

観点5-6-②： 研究指導、学位論文に係る指導に対する適切な取組が行われているか。

#### 農学研究科 5-6-②

(観点に係る状況)

学生と指導教員との間で研究テーマに関する綿密な検討、打合せが行われ、研究指導計画書(資料5-6-2-1)が作成され、それに基づき研究が行われている。また、適宜、研究の中間報告会が実施され、複数の教員により、研究に対する助言、指導が行われ、学位論文の執筆に当たっても、指導教員以外に複数の教員が論文執筆の指導を行っている(資料5-6-2-2)。

また、「TAの任用、運用に関する申合事項」(資料5-6-2-3)を定め、研究科の学生は、教員の監督のもとで学部学生の演習や実験などの指導に当たり、教育訓練の機会が与えられている。平成18、19年度におけるTAの任用に関する実績は、観点3-4-1の表の通りで、教育関連能力向上の機会が継続的に与えられている。

(分析結果とその根拠理由)

学生は、主指導教員のもと、研究テーマの決定を行い、研究の遂行や学位論文の執筆に当たっては複数の教員の指導を受けている。また、TAとして、学部学生の演習や実験などの補助指導に当たることにより、教育訓練の機会が与えられており、研究指導に対する適切な取組が行われている。

資料 5-6-2-1 研究指導の実施に関する報告書

資料 5-6-2-2 平成19年度佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内p12～13

資料 5-6-2-3 TAの任用、運用に関する申し合わせ事項(教務委員会)

観点5-7-①： 教育の目的に応じた成績評価基準や修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

#### 農学研究科 5-7-①

(観点に係る状況)

各授業の成績評価基準、修士論文、最終試験の評価基準及び修了認定基準は、大学院履修案内(資料5-7-1-1)とオンラインシラバス(資料5-7-1-2)に明記するとともに、大学院履修案内を学生全員に配布し、特に、成績評価基準については入学時及び各教員の初回授業時にガイダンスを実施し、周知している。

研究科の修了認定は、この修士論文及び最終試験の評価基準に基づき、まず提出論文の内容、学位論文発表会での発表及び質疑応答内容などにより、厳格に評価し、次に学位論文の単位を含めた修得単位数をもとに各専攻で修了認定審査を行い、さらに教務委員会を通し、最終的には研究科委員会(資料5-7-1-3)において審議し、認定を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

成績評価基準及び修了認定基準は、履修の手引やオンラインシラバスに明記するとともに、入学時及び初回授業時にガイダンスを実施し、学生全員に周知している。また、研究科の修了認定は、学位審査細則に基づき、厳格に評価し、修了認定を行っており、成績評価、単位認定、終了認定は適切に実施されている。

資料 5-7-1-1 平成 19 年度佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内 p12～13

資料 5-7-1-2 佐賀大学ホームページ (Live Campus)

[http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live\\_campus\\_006.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html)

資料 5-7-1-3 平成 19 年度研究科委員会議事録 (大学院修了認定資料)

観点5-7-②： 学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制が整備されているか。

#### 農学研究科 5-7-②

(観点に係る状況)

修士論文に係る評価基準は、オンラインシラバス(資料5-7-2-1)に明記するとともに、入学時及び初回授業時にガイダンスを実施し、周知している。

修士論文及び最終試験の評価は、主査(1人)及び副査(2人以上)の教員が行う。学位審査細則に基づき、提出論文の内容、学位論文発表会での発表及び質疑応答内容などにより、各教員が100点満点の採点制により、その平均点において、60点以上を合格としている。

(分析結果とその根拠理由)

学位論文に係る評価基準は、入学時や授業開始時のガイダンスなどにより周知され、学位論文の審査については学位審査細則に基づき、厳格に実施されており、適切な審査体制が整備され、機能している。

資料5-7-2-1 佐賀大学ホームページ(Live Campus) <a href="http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html">http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html</a>
--

観点5-7-③： 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

**農学研究科 5-7-③**

(観点に係る状況)

成績評価等の正確さを担保するための措置として、平成20年度から学業成績にGPAを採用するかどうかについて検討している。さらに、教員による成績評価判定資料の保管、学生に対する試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始予定である。また、成績の厳格評価の結果として生まれることが予測される学生からのクレームへの対応のために、「成績評価の異義申立てに関する要項」(資料5-7-3-1)を平成18年度に定めたが、現時点では、学生からのクレームはない。

(分析結果とその根拠理由)

平成20年度から学業成績にGPAを採用することを検討し、さらに成績評価判定資料の保管、学生に対する試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始予定であることから、成績評価等の正確さを担保するための措置は講じられつつある。

資料5-7-3-1 平成20年度学生便覧 p392 (平成19年度学生便覧には載っていない)
--

## 6 教育の成果

観点6-1-①： 学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

#### 農学研究科 6-1-①

(観点に係る状況)

農学研究科理念にしたがって、教育達成後の資質、人材像等は明確に定めており(資料6-1-1-1)、これに基づき、学部教育委員会及び大学院教育小委員会が毎月定例的及び必要に応じて委員会を開催し、院生が各学年、修了時等に身に付ける学力や能力、資格取得の状況、あるいは、修論の内容・水準を調査・検討し、教育の成果や効果を検証・評価している。

例として、大学院教育小委員会では修士論文の審査・最終試験の審査方法の見直し、研究指導計画の策定と様式の作成・実施(資料6-1-1-2)、修了生へのアンケート内容の検討(資料6-1-1-3)、GPAの導入の可能性などを平成19年度に検討している。

また、別に本学部の理念、教育研究の目的及び目標の達成度を総合的に評価する農学部評価委員会を定期的で開催しており、その達成度や問題点を佐賀大学農学部自己点検・評価報告書(資料6-1-1-4)等にまとめて公表している。

(分析結果とその根拠理由)

農学研究科では、学部教育委員会、大学院小委員会及び農学部評価委員会が定期的に、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための取組を行っている。

資料6-1-1-1	平成20年度農学研究科大学院履修案内p8
資料6-1-1-2	研究指導の実施に関する報告書
資料6-1-1-3	アンケートの主旨とお願い(大学院教育小委員会)
資料6-1-1-4	2003年佐賀大学農学部自己点検・評価報告書

観点6-1-②：各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

#### 農学研究科 6-1-②

（観点に係る状況）

表16は、院生が学会などで発表した研究論文数である。院生の在籍数は各年度50人（定員）内外であり、ここ最近では少なくとも院生の1人が毎年学会発表を行い、2人に1人が論文を発表していることになり、院生の研究活動は活発である。

また、平成16年度から19年度における全在籍者数に対する修了者の割合（修了率）（表17）は、生物生産学専攻で、89～100%、応用生物科学専攻で85～96%であり、各専攻の平均は90%と非常に高く、教育の成果は上がっている。

表16. 大学院生の学会発表・論文発表数

区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度
学会発表数（回）	58	90	67
論文発表数（件）	21	27	22

注：論文発表数は、学生が学術雑誌（紀要、論文集等も含む。）に発表したもの（査読中・投稿中のものは除く。）

（出典：平成20年度大学院教育改革支援プログラム：農業版MOTーがんばRAMBAねっと）

表17. 農学研究科における年度別修了率

専攻	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
	在籍者数	修了者数	修了率	在籍者数	修了者数	修了率	在籍者数	修了者数	修了率
生物生産学専攻	19	17	89%	30	30	100%	16	15	94%
応用生物科学専攻	28	26	93%	34	32	94%	25	24	96%
合計	47	43	91%	64	62	97%	41	39	95%

（出典：農学研究科の現況調査票（教育）平成20年6月）

（分析結果とその根拠理由）

年度ごとの学会発表数や論文発表数から、少なくとも院生の1人は学会で発表しており、2人に1人は論文を出し、また過去4年間の修了率も90%を上回っていることから、教育の成果や効果は上がっている。

観点6-1-③： 授業評価等, 学生からの意見聴取の結果から判断して, 教育の成果や効果が上がっているか。

トップ

## 農学研究科 6-1-③

(観点に係る状況)

本研究科の理念, 目的に沿った教育効果が十分達成されているかについては, 平成18年度から大学院学生による授業評価を行い, また修了生を対象としたアンケート調査等を通じて, 評価を行っている。

大学教育委員会が行っている授業評価(資料6-1-3-1)において, 授業を聞いて興味が増したとする学生は60~80%で, また授業の満足度については, 肯定的意見が70~80%あり, ほぼ教育の効果が上がっていると判断される(図2)。

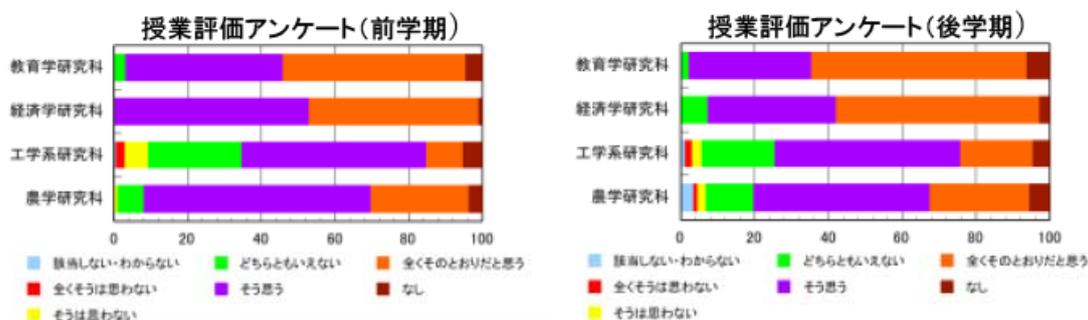
一方, 大学教育委員会及び高等開発教育センターが行った平成18年度及び平成19年度の学生対象アンケート(資料6-1-3-2)を比較すると, 専門必修科目及び選択科目とも満足度が上がっている。平成19年度から専攻横断的なコア科目, 専門共通科目及び専門科目とバランス良く履修できるモデル(資料6-1-3-3)を提案している成果と考えられる。

さらに, 修了生を対象としたアンケート調査では, 農学研究科が教育効果を期待する項目(表18)について, 多くの項目で70%以上がほぼ習得出来ているとする判断をしているが, 社会で役に立つ技術, 創造性及び教養の知識で十分でないと感じている学生が多く, この対応を今後検討する必要がある。

図2. 授業評価アンケート(授業の興味の増加及び満足度について)  
(この授業を聴いて興味がましたか)



(この授業を受講して満足が得られたか)



(出典：平成19年度授業評価・改善の実施に関する報告書)

表18. 平成19年度修了生におけるアンケート調査 (回収率44.1%)

(%)

項目	あまりできなかった	どちらともいえない	ややできた	かなりできた	合計
専門的な知識と技能の習得	0.0	0.0	60.0	40.0	100.0
就職に結びつく技能の習得	13.3	26.7	46.7	13.3	100.0
分析し批判する能力の習得	0.0	13.3	80.0	6.7	100.0
社会に適応する能力	6.7	13.3	66.7	13.3	100.0
コミュニケーション能力	0.0	20.0	60.0	20.0	100.0
プレゼンテーション能力	6.7	20.0	46.7	26.7	100.0
資料や報告書を書く能力	6.7	6.7	53.3	33.3	100.0
創造性が豊かになったか	13.3	40.0	26.7	20.0	100.0
一般教養が向上したか	26.7	33.3	33.3	6.7	100.0
研究能力が上がったか	0.0	13.3	60.0	26.7	100.0

(出典：国立大学法人佐賀大学共通アンケート(農学研究科修了予定者対象)基礎集計表)

(分析結果とその根拠理由)

大学院生による授業評価、修了生に対するアンケート調査等から判断して、教育の成果や効果が概ね上がっているが、一部に効果が認めにくい部分があり、この理由を分析し、改善する必要がある。

資料6-1-3-1 佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書 p27, 32  
 資料6-1-3-2 平成19年度学生対象アンケート報告書 p87  
 資料6-1-3-3 共通アンケート(農学研究科修了予定対象者)基礎集計表 p21~24

観点6-1-④： 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

#### 農学研究科 6-1-④

（観点に係る状況）

就職や進学といった進路状況等について、本研究科は就職委員会を組織して、現状を定量的に把握し、教育成果や効果を調査している。これによると、平成 18, 19 年度修了生の就職率は就職希望者に比して 100%であり、進学者も 10%内外である（表 19）。

また、各学科が意図している人材像に学生が近づいているという意味（履修モデルを推奨）では、80%以上の修了生が専門分野に就職していることから、研究者・専門職業人の養成に関する教育の成果や効果が上がっていると判断される（表 20）。

表 19. 修了生の進学及び就職状況

年 度	修了生人数	進学者	就職者	その他
18	62	6	51(43) (就職希望 51)	5
19	39	5	28(22) (就職希望 28)	6

就職者の項の（ ）内は専門分野の就職者数

（出典：平成 20 年度佐賀大学農学部・農学研究科概要 p24）

表 20. 農学研究科修了生の過去 5 年間の就職・進学状況

進学及び就職先	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	合計
進学	10	9	6	5	30
農業・林業	1	1	6	4	12
食料品・飲料等	5	7	16	3	31
医薬品・農薬等	0	3	5	0	8
機械器具製造など	2	0	2	4	8
建設業	0	0	3	1	4
電気ガス水道	0	0	1	3	4
情報通信業	1	0	2	0	3
卸売・小売業	0	2	0	2	4
金融・保険業	1	0	1	1	3
学校教育	5	1	3	2	11
サービス業等	3	7	10	2	22
公務員	2	2	3	5	12
その他	7	20	5	6	38

（出典：キャリアセンター就職関連資料）

（分析結果とその根拠理由）

最近 2 年間の修了生の就職率は、100%であり、専門分野への就職率も高いことから、教育の成果や効果が十分上がっており、研究者・専門職業人の養成に関する教育の効果も上がっている。

観点6-1-⑤：卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

#### 農学研究科 6-1-⑤

（観点に係る状況）

修了生や、就職先等の関係者から、在学時に身に付けておくべき学力や資質・能力等について意見を聴取するために、アンケートや聞き取り調査を実施している。

修了生のアンケート結果では、本学部の教育の成果や効果は、観点6-1-3で述べたように概ね上がっていると判断されるが、データをさらに集積する必要がある。

農学部就職委員会では、平成17年度に会社関係者（146社）へのアンケート調査を行っている。回収率は、25%と低かったが50社以上の回答が得られた。このアンケート結果（表21）によると、佐賀大学卒業生・修了生の専門基礎知識や能力、技術力、環境適応能力及び貢献度については満足あるいは非常に満足しているが回答数の90%以上を占め、教育の効果が上がっていることを示している。ただ、語学能力については回答数の約60%が不満であることを示しており、語学教育に力を入れる必要がある。

また、資料はないけれども、別に本研究科では後援会の支援により各専攻の主任の教員が就職支援活動の一環として会社訪問を行い、就職した学生の働きぶりを聞き取り調査するとともに、求人の依頼をしている。

表 21. 学部卒業生及び農学研究科修了生の企業の満足度（会社数）

	不満足	やや不満足	満足	非常に満足
専門基礎知識や能力に満足していますか。	0	5	46	6
採用時点での基礎技術に満足していますか。	0	5	43	5
採用時点での外国語能力に満足していますか。	2	19	23	2
採用後、職場環境に適応していますか。	0	1	39	17
採用後、会社に貢献していますか。	0	4	44	9

（出典：平成17年度企業アンケート調査結果報告書、農学部就職委員会）

（分析結果とその根拠理由）

修了生のアンケート結果及び就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断すると、教育の成果や効果は概ね上がっている。

## 7 学生支援等

観点7-1-①： 授業科目や専門，専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

#### 農学研究科 7-1-①

(観点に係る状況)

農学部教育委員会を中心として、学生に対して年数回のガイダンスを行っている。具体的には、研究科の入学生を対象として、大学院履修案内(資料7-1-1-1)及び佐賀大学農学部・農学研究科概要(資料7-1-1-2)を配布し、これに沿って、教育研究内容、教員組織、履修モデル、授業科目の選択、受講方法、履修方法、修了認定基準及び学位授与等について説明している。平成19年度院生アンケートのガイダンス項目(資料7-1-1-3)をみると、ガイダンスによって履修方法を大体理解した人はアンケート提出者の約程度で、必ずしもガイダンスの理解度が良いとは言えないが、平成18年度のアンケートに比べて、理解度が上昇している。

また、個別の取り組みとして各教育研究分野の指導教員は、分野所属の学生と相談し、2年間の履修計画を立て、マンツーマンで学習(履修)を指導している。入学者の1割強を占める他大学からの入学者の多くに対し、教員は必要に応じて、個別に特別の指導(補完的な教育や研究方法の指導)を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部教育委員会を中心として、学生に対して年数回のガイダンスを行い、指導教員が学生に対して2年間の履修計画をマンツーマンで学習(履修)を指導するなど、授業科目や専門，専攻の選択の際のガイダンス体制は概ね適切であるが、履修方法を理解した学生が50~60%と低く、ガイダンスの説明方法に工夫を要する。

資料7-1-1-1	平成19年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内
資料7-1-1-2	平成19年度佐賀大学農学部・農学研究科概要
資料7-1-1-3	平成19年度佐賀大学学生対象アンケート報告書 p64, 83

観点7-1-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。

#### 農学研究科 7-1-②

##### (観点に係る状況)

本学部では，学習支援に関する学生のニーズについて，教育委員会を中心に組織的に把握・分析し，助言，支援を行っている。また，農学部ホームページにも在学生対象の履修方法などに関する質問コーナー（資料 7-1-2-1）を設け，さらに農学部の全教員がオフィスアワーを設定し（資料 7-1-2-2），学習相談・助言体制を整えている。平成 17 年度は，学部生・院生を含めたメールや研究室での相談が農学部教員一人当たり 30 件（資料 7-1-2-3）を超え，その中の 67%は学習相談であった。この相談件数は，各学部と比較して突出しており，院生が教員に相談しやすい環境にあると判断される。

また，学生アンケート（資料 7-1-2-4）によると学習相談体制に満足している院生はアンケート提出者（未提出者約 55%）の約 20%程度であり，学習相談・助言の指導方法などに工夫を要することが明らかとなった。

##### (分析結果とその根拠理由)

教育委員会を中心として組織的に，農学部ホームページにも在学生対象の質問コーナーを設けるなど，学生のニーズを適切に把握するため，適切な学習相談，助言，支援体制を整えている。しかし，農学研究科の院生は学習支援体制に十分満足しているとは言えず，満足していない理由を解明し，改善策を考える必要がある。

資料 7-1-2-1	農学部ホームページ，在学生向け情報 <a href="http://www.ag.saga-u.ac.jp/zaikousei.html">http://www.ag.saga-u.ac.jp/zaikousei.html</a>
資料 7-1-2-2	平成 19 年度オフィスアワー時間一覧 <a href="http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/h20.office.html">http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/h20.office.html</a>
資料 7-1-2-3	平成 18 年度佐賀大学教員対象アンケート報告書 p7～8
資料 7-1-2-4	平成 19 年度佐賀大学学生対象アンケート報告書 p50

観点7-1-④： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

#### 農学研究科 7-1-④

(観点に係る状況)

留学生には、英会話の堪能な留学生担当講師を配置し、授業科目としてアグロサイエンス特論及びアグロサイエンス特別演習を配置し、教育支援を行っている(資料7-1-4-1)。これに加えて、留学生には特別に学生チューター制(資料7-1-4-2)も設けており、日本の学生が学習と生活面について支援する体制を整えている。

なお、基礎教育が必要とされる社会人等に対する補習教育や障害者の教育支援についてははっきりしたシステムが無く、留学生委員会、教育委員会、学生委員会が適宜、あるいは指導教員が個別に対応している。

(分析結果とその根拠理由)

留学生については、学習内容に対応して留学生担当講師あるいは日本の学生が学習支援をするなど、制度的な教育支援を行っている。身体障害者等の学習支援は制度的な対応が現時点でなく、各種委員会や指導教員が個別に対応している。

資料7-1-4-1 平成19年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内p19 資料7-1-4-1 チューターの手引き (佐賀大学国際課)
--

観点7-2-①： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

### 農学研究科 7-2-①

(観点に係る状況)

附属図書館には、自主的に学習する学生及び院生のための閲覧スペースとグループ学習室があり、パソコンによる図書・文献の検索や読書などを自由に行うことが可能である(資料7-2-1-1)。インターネットによる情報収集は、附属図書館以外に総合情報基盤センターの施設も利用(資料7-2-1-2)でき、講義時間以外に学生及び院生が自由に使用可能である。

また、農学研究科では、分野毎あるいは研究室毎に院生用の机を整備し、複数の教育分野では、院生専用の演習室を確保し、各部屋にはパソコンを設置している(表22)。これらは、いずれも院生が自主学習に活用しており、平成19年度の学生アンケート(資料7-2-1-3)によれば、農学研究科における自習スペースの満足度はアンケート提出者の約40%程度であり、不満と思う割合が20%程度あり、さらにパソコンの数量に関しても40~50%の学生があまり満足しておらず、学習環境をさらに充実する必要がある。

表22. 農学研究科の自習スペース

専攻	場所	面積(m <sup>2</sup> )	設置組織 0:学部 1:学科・ 課程 2:その他	年間延べ 利用時間 (時間)	黒板・ 白板の 数	机・テー ブルの数	椅子の 数	書籍の 数(冊)	PCの数	LANの有無 0:無し 1:有り (有線) 2:有り (無線)
生物生産 学専攻	農学部1号館1階	11.1	2	1,920	1	4	5	127	2	1,2
	農学部1号館3階	25.1	2	1,920	0	9	9	229	4	1,2
	農学部2号館1階	25.5	2	1,920	2	7	7	183	2	1
	農学部2号館2階	11	2	1,920	1	3	7	1,400	1	1
	農学部3号館1階	41.3	2	1,920	0	8	8	2,471	4	1
	農学部4号館1階	11	2	1,920	1	2	2	213	1	1,2
	農学部4号館2階	5.5	2	1,920	1	2	2	6	2	1,2
	農学部4号館3階	80.7	2	1,920	1	18	38	1,050	7	1,2
	農学部4号館4階	8.8	2	1,920	0	1	2	6	1	1,2
	農学部4号館5階	101	2	1,920	1	18	28	120	7	1,2
	フィールドセンター	5.7	2	1,920	1	2	3	7	1	1
海浜台地生物環境研究センター	44	2	1,200	1	10	10	50	0	1	
合計	370.7				10	84	121	5,862	32	
応用生物 科学専攻	農学部1号館1階	19.1	2	1,920	2	9	9	1,433	2	1,2
	農学部1号館2階	88.1	2	1,920	3	20	31	2,430	11	1,2
	農学部1号館3階	51.4	2	1,920	1	14	20	2,084	5	1,2
	理工学部9号館2階	11	2	1,920	2	3	5	630	2	1,2
	合計	169.6				8	46	65	6,577	20

(出典：平成19年度教育活動等調査報告書「自習スペース」)

(分析結果とその根拠理由)

農学部学生のための自主的学習環境は、主に、附属図書館、総合情報基盤センター及び農学部建物において整

備されているが、農学研究科の院生によるアンケートの結果、自習スペース及びパソコンの使用に関する満足度は十分とは言えず、効果的な学習環境の構築について検討する必要がある。

資料 7-2-1-1 附属図書館利用規程

資料 7-2-1-2 総合情報基盤センター利用規程

資料 7-2-1-3 平成 19 年度佐賀大学学生対象アンケート報告書 p50

観点7-3-①： 生活支援等<sup>※</sup>に関する学生のニーズが適切に把握されており、健康、生活、進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われているか。

### 農学研究科 7-3-①

#### (観点に係る状況)

学生の進路・生活面・健康（精神面）及び定期的健康診断などについては、主に所属研究室の指導教員、学生センターの相談窓口（資料7-3-1-1）及び農学部ホームページの相談窓口（資料7-3-1-2）で対応している。また、佐賀大学学生支援室では、適切な学生の指導法を書いたチューター（担任）制度ガイドブック（資料7-3-1-3）を発行し、教員に配布している。

留学生の場合には、日本の学生による学生チューター制（資料7-3-1-4）をとり、生活支援体制を整えている。また、農学部では留学生専門講師を配置し、講義（資料7-3-1-5）を通じて留学生の進路及び生活などに関して支援している。

セクハラについて、農学部では相談員を2人配置し、入学時にセクハラ防止に関するパンフレット（資料7-3-1-6）を新入生のガイダンス時に配布・説明し、入学後も学内で同和・人権の講習会を数回開き（資料7-3-1-7）、教職員及び学生にこの問題が生じた場合の対応や予め防ぐ方法などを周知させている。

#### (分析結果とその根拠理由)

学生の健康、生活、進路面については、指導教員をはじめ学生センター、学生支援室及び保健管理センターなどで2重、3重に支援体制を整えている。セクハラが生じた場合の対応についてもパンフレットの配布、ガイダンス及び講習会などで周知させると同時に相談・助言体制が整備され、適切に機能している。

資料 7-3-1-1	学生相談（学生センターHP） <a href="http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/">http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/</a>
資料 7-1-2-2	農学部ホームページ、在学生向け情報 <a href="http://www.ag.saga-u.ac.jp/zaikousei.html">http://www.ag.saga-u.ac.jp/zaikousei.html</a>
資料 7-3-1-3	チューター（担任）制度ガイドブック（佐賀大学学生支援室）
資料 7-3-1-4	チューターの手引き（佐賀大学国際課）
資料 7-3-1-5	平成19年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内p19
資料 7-3-1-6	セクハラ・アカハラ・パワハラとは？（同和・人権問題委員会）
資料 7-3-1-7	平成19年度FD・SDフォーラム開催予定表（高等教育開発センター）

観点7-3-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

#### 農学研究科 7-3-②

(観点に係る状況)

一般に日本語が不自由な入学当時の留学生には、日本の学生が生活面などを支援する学生チューター制(資料7-3-2-1)を設けている。また、前出の留学生担当講師も学習支援のみならず、講義などを通じて生活面の相談も受けている。身体障害者への生活支援については、制度的なものではなく、研究室の指導教員や学生が個別に対応している。

(分析結果とその根拠理由)

留学生の生活支援については、制度的に行われているが、身体障害者などの生活支援については、個別に対応しているのが現状である。

資料7-3-2-1 チューターの手引き (佐賀大学国際課)
-------------------------------

観点7-3-③： 学生の経済面の援助が適切に行われているか。

### 農学研究科 7-3-③

(観点に係る状況)

佐賀大学の大学院学生の経済支援体制として、授業料免除(半減も含む)と奨学生制度があり、この窓口には佐賀大学学生センター(資料7-3-3-1)が対応し、Web上に掲載して、広く周知させている。農学部学生委員会では、大学院学生の奨学生選考の順位をつけ、全学学生委員会(資料7-3-3-2)に報告している。全学学生委員会では厳正な審議を行い、大学院学生の授業料減免者及び奨学生の候補者を決定している。また、農学研究科では奨学金返還免除者申請に関する定め(資料7-3-3-3)を整備しており、入学時のガイダンスで周知させている。

(分析結果とその根拠理由)

経済的支援体制として、農学研究科学生を対象とした授業料減免制度及び奨学生制度・奨学金返還免除制度を設けており、これらの選考制度が整備され、機能している。

資料 7-3-3-1 佐賀大学学生センター，授業料免除・奨学生  
<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/>

資料 7-3-3-2 全学学生委員会規程

資料 7-3-3-3 免除者申請の定め(平成18年度制定，「農学研究科奨学金返還免除候補者」の選考について)  
(農学部学生委員会)

## 8 施設・設備

観点8-1-②： 大学において編成された教育課程の遂行に必要なICT<sup>※</sup>環境が整備され、有効に活用されているか。

#### 農学研究科 8-1-②

(観点に係る状況)

農学研究科では、ほぼすべての研究室、演習室、実験室にインターネットの有線LAN端末及び無線LANポート(10ヶ所)を設けている(資料8-1-2-1)。学生には、入学後すぐにインターネット・アドレスが与えられ、個人用ならびに図書館あるいは情報演習室に設置しているパソコンを用いて、就学に必要な情報を、学内及び学外から自由に得ることができる。各研究室の自習スペースには有線LANが設置され、生物生産学専攻では32台のパソコンが、応用生物科学専攻では20台のパソコンが設置されている(資料8-1-2-2)。

(分析結果とその根拠理由)

教育の内容・方法や学生のニーズを満たすための情報ネットワークの整備は、おおむね達成され、教職員及び学生により有効に活用されている。しかしながら、研究室の自習スペースにおけるパソコンの設置台数は充分とはいえない。

資料8-1-2-1 農学部ICT環境(LAN, パソコン設置状況)

資料8-1-2-2 自習スペースの利用状況調査(平成19年度)

観点8-1-③： 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

### 農学研究科 8-1-③

（観点に係る状況）

農学部は、基本計画委員会規程及び施設委員会規程を定め、施設・設備の運用方法に係る諸課題について審議し、審議結果を教職員へ周知している（資料8-1-3-1、資料8-1-3-2）。農学研究科は、農学部で定められた施設・設備の運用に関する方針を準用している。農学部が作成した「実験・実習における安全の手引」（資料8-1-3-3）に施設・設備の利用方法を明記し、全ての実験室等の目につく場所に配置している。また、大学院生に対しては新入生オリエンテーションで周知を図るとともに、実験・実習の際に再度、使用方法を指導している。

農学部1号館の改修は、基本計画委員会において審議・立案され、佐賀大学農学部共同利用スペース利用細則（資料8-1-3-4）が制定された。学系などの専門教育研究分野ごとに集団化することにより、実験スペースや施設のオープン化、共有化、共同利用化の促進と、研究教育機能の効率化を進めた。大学院教育に必要な高度な研究用機器は、総合分析実験センター機器分析部門の装置として登録・管理されており、その利用に関しては、佐賀大学ホームページの利用案内（資料8-1-3-5）に示されている。多目的講義室、大学院演習室、学生演習室、会議室の使用に当たっては、事前に予約表に記入することを義務づけている。液晶プロジェクター、実物投影機、OHP、スライドプロジェクターなどの教育機器についても集中管理し、予約制としている。

（分析結果とその根拠理由）

農学研究科の施設・設備の整備・運用は、農学部基本計画委員会・施設委員会で検討された基本方針に基づいて行っており、教職員及び大学院生に周知され、有効利用が図られている。農学研究科の教育研究に必要な施設・設備は、1号館の建物改修により格段に改善された。

資料8-1-3-1 農学部施設委員会規程
資料8-1-3-2 農学部基本計画委員会規程
資料8-1-3-3 実験・実習における安全の手引 p17～23, p45～51
資料8-1-3-4 農学部共同利用スペース利用細則
資料8-1-3-5 佐賀大学総合分析センター ホームページ <a href="http://www.iac.saga-u.ac.jp/index2.htm">http://www.iac.saga-u.ac.jp/index2.htm</a>

## 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

観点9-1-①： 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。

#### 農学研究科 9-1-①

(観点に係る状況)

教員の講義ノート、学生の出席状況、試験問題、レポート課題、答案、レポート、成績結果、卒業論文、修士論文、博士論文等の教育活動の実態の根拠となる原資料については、原則として担当した教員が保管・蓄積している。博士論文については、論文本体とPDF ファイルを図書館が保管・蓄積している。

農学研究科担当教員の全般にわたる教育活動の実態を4年ごとに佐賀大学自己点検評価報告書(資料9-1-1-1)及び農学部教育研究業績総覧(資料9-1-1-2)などとしてとりまとめ、農学部総務係が管理している。

(分析結果とその根拠理由)

教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を研究科担当教員や図書館などで、収集・蓄積・管理しており、それらの組織的集計については自己点検評価報告書や研究業績総覧などにとりまとめ、農学部総務係が適切に保管・管理している。

資料9-1-1-1 佐賀大学自己点検評価報告書(2003年)

資料9-1-1-2 佐賀大学農学部教育研究業績総覧(2006年)

観点9-1-②： 大学の構成員（教職員及び学生）の意見の聴取が行われており，教育の質の向上，改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

#### 農学研究科 9-1-②

（観点に係る状況）

大学院の全講義において授業評価が実施され（資料9-1-2-1），この集計結果については，高等教育開発センターにおいて研究科ごとに集計・比較・分析し（資料9-1-2-2），評価項目に対する講義の相対的評価を個々の担当教員に通知し，これを参考に来年に向けた授業の改善点などをホームページで公表させるようにしている（資料9-1-2-3）。

また，大学教育委員会と高等教育開発センターでは，教職員にもアンケート（資料9-1-2-3）を行い，オフィスアワーの設置意義やFD講演会の参加回数あるいは学生の授業評価の利用方法などを質問しており，これらのデータを基に教員の教育の質の向上や改善について検討している。

（分析結果とその根拠理由）

大学教育委員会と高等教育開発センターでは，大学院生による授業評価を毎年行い，また教職員にも教育に関する重要な事柄についてアンケートを行い，これらの結果を教員の授業改善及び教育全般にわたる改善に利用しており，大学の構成員の意見が教育の質の向上・改善に向けて継続的に適切な形で活かされている。

資料9-1-2-1	授業評価実施要領（佐賀大学教育委員会）
資料9-1-2-2	平成19年佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書
資料9-1-2-3	佐賀大学ホームページ（Live Campus） <a href="http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html">http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html</a>
資料9-1-2-4	平成18年度佐賀大学教員対象アンケート報告書

観点9-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

#### 農学研究科 9-1-③

(観点に係る状況)

農学部就職委員会において、修了生の就職先へアンケート調査を実施し、修了生に対する社会の評価を教育の状況へ反映させるための報告書を作成・配布し、各教員へ周知している(資料9-1-3-1)。

年1回、農学部後援会を開催し、保護者へ教育活動の報告を行い、保護者との意見交換の際、出て来た要望等を専攻会議や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映している。

さらに、4年ごとに実施する農学部自己点検・評価において、学外評価委員からの意見を聴取し(資料9-1-3-2)、学部教育委員会や学部運営委員会で検討し、教育活動へ反映している。

(分析結果とその根拠理由)

会社関係者、保護者及び卒業生などのアンケートや意見は、専攻会議や学部運営会議などで検討され、教育活動へ反映されているので、学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて概ね適切な形で活かされている。

資料9-1-3-1 平成17年度企業アンケート調査結果報告書

資料9-1-3-2 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書

観点9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。

#### 農学研究科 9-1-④

(観点に係る状況)

研究科の教員は、院生や学部生による授業評価（資料9-1-5-1, 9-1-5-2）に基づいて、自らの授業内容や授業技術等の改善を行っている。この改善点などを、教員の個人評価に関する実施基準（資料9-1-5-3）にある授業改善の点検項目に教員自ら記述するとともに、この記述に沿って継続的な改善に取り組んでいる。また、この改善点などは佐賀大学HPのライブキャンパス（資料9-1-5-4）にある「授業点検・評価の参照」の項目で公開している。

また、授業評価の結果から、映像を用いた講義スタイルの要望が強いことへの対応として、講義室に設置してあるビデオ装置・OHPや液晶プロジェクターなどの映像機器（資料9-1-5-5）を多くの教員が活用している。

(分析結果とその根拠理由)

教員は、在学生や修了生などの授業評価や各種アンケート調査結果に基づいて、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っている。

資料9-1-5-1 平成19年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書

資料9-1-5-2 佐賀大学学生対象アンケート報告書

資料9-1-5-3 佐賀大学農学部における教員の個人評価に関する実施基準

資料9-1-5-4 佐賀大学HP（ライブキャンパス）

<https://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/UI/jsp/login/loginTeacher.jsp?locale=ja>

資料9-1-5-5 農学部映像機器整備表

観点9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

### 農学研究科 9-2-①

(観点に係る状況)

学生による授業評価に基づいたFD活動を行うために大学教育委員会で授業評価の結果を集計分析し、検討結果を学部へフィードバックし(資料9-2-1-1)、これらに基づいて、教員はシラバスの改善(資料9-2-1-2)を毎年継続的に行っている。

また、主として高等教育開発センターが毎年数回FD・SDフォーラム(表23)を開催し、教員へ授業評価の活用などを教授している。

また、授業評価の結果から、映像を用いた講義スタイルへの要望が強いことへの対応として、講義室にビデオ装置・OHPや動画処理が可能な液晶プロジェクターを整備し(資料9-2-1-3)、さらに無線LANポートやLAN有線接続ポートを設け、インターネットを活用した講義を可能とするなど、教育環境の改善を行っている。

表23. 平成19年度高等教育開発センター主催FD・SDフォーラム

	開催年度	開催日	参加人数	講演者
第10回	19	7月25日(水)	35	理工学部：穂屋下 茂
FD講演会 (教養教育主催)	19	11月28日(水)	35	メディア教育開発センター：小野 博
第11回	19	12月5日(水)	31	千歳科学技術大学：小松川 浩
第12回	19	12月17日(月)	31	帝塚山大学：中嶋 航一 帝塚山大学：堀 真須美

(分析結果とその根拠理由)

年数回のFDセミナー開催による教員への授業評価の活用法の教育、授業評価に基づいた教員個々のシラバスなどの改善、映像機材などの導入による教育環境の充実など、FDが適切な方法で実施されており、組織として教育の質の向上や改善に概ね結びついている。

資料9-2-1-1 平成20年度「学生による授業評価」の実施に関する報告書

資料9-2-1-2 佐賀大学HP(ライブキャンパス)

<https://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/UI/jsp/login/loginTeacher.jsp?locale=ja>

資料9-2-1-3 農学部映像機器整備表

観点9-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

### 農学研究科 9-2-②

(観点に係る状況)

技術職員、TA等の教育支援者や補助者は、実験、実習において授業担当教員等と密接に連携し、教育支援を行っている。技術職員には、資質の向上を図る目的で毎年研修会や学会などに参加させている(表24)。また、主に大学院学生が行うTAについては、佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領に基づき(資料9-2-2-1)、教育支援のノウハウを授業担当教員が指導し、教育支援者としての資質の向上を図っている。

表24. 平成19年度の技術職員による研修例

年度	農学部・農学研究科	附属資源循環フィールド科学教育センター
19	大島技術専門員：マングローブ調査(インドネシア、ベトナム、鹿児島県) 大島技術専門員：農林水産研究高度化事業推進会議(九州農政局) 大島技術専門員：光合成実験装置に関する技術検討(琉球大学) 竹下技術専門員：関東地方での野菜栽培及び採取方法の研修 中谷技術員：平成19年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修(鹿児島大学) 中谷技術員：工場見学(味の素、大塚製薬、アサヒビール)	青木技術専門職員・福嶋技術専門職員・森技術員：全国大学附属農場協議会九州地域協議会参加及び技術職員研修(九州大学) 青木技術専門職員：研究発表、全国大学附属農場協議会九州地域協議会参加及び技術職員研修(九州大学) 福嶋技術専門職員：平成19年度園芸学会秋期大会ポスター発表(香川大学)

(分析結果とその根拠理由)

教育支援者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修を行い、また、佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領を定め、授業補助者へ授業担当教員が教育支援のノウハウを指導するなど、資質の向上を図るための取組を行っている。

資料9-2-2-1 佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領

## 10 管理運営

観点11-1-①： 管理運営のための組織及び事務組織が、大学の目的の達成に向けて支援するという任務を果たす上で、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

#### 農学研究科 11-1-①

(観点に係る状況)

農学研究科の管理運営は、研究科長(学部長兼任)のリーダーシップの下で、教員組織と事務組織(農学部事務長と総務係職員)が連携・協力しながら、任務を果たしている。農学部には、管理運営に関係する委員会として、管理運営を含む重要事項について検討するための組織である学部運営会議(学部長、副学部長、学科長、副学科長の7人で組織)をはじめ、農学部予算委員会、農学部基本計画委員会、農学部人事委員会、農学部評価委員会、農学部施設委員会、農学部安全衛生委員会、フィールドセンター運営委員会を設置しているが、これらの委員会は農学研究科の管理運営に関わる事項についても審議し、管理運営に係る事項は、研究科委員会において周知されている。研究科委員会は、研究科を担当できる資格を持つ教授(29人)、准教授(22人)、講師(1人)及び助教(1人)により構成している。研究科委員会は、各種委員会委員の選出や、その他の運営に関する事項の審議を行っている。

危機管理のために、「非常事態発生時(勤務時間外)の緊急連絡網」を定め、教職員と大学院生へ周知している。緊急事態の発生を未然に防止するための実務は、農学研究科においても農学部安全衛生委員会(委員長は副学部長)、農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会等が担当している。

(分析結果とその根拠理由)

農学研究科の管理運営の組織と事務組織は、適切な規模となっており、適切に機能している。危機管理等の体制は、法人化後に強化され、適切に機能している。

観点 11-1-③： 大学の構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者のニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映されているか。

### 農学研究科 11-1-③

（観点に係る状況）

教職員のニーズは、各種学内委員会、専攻会議、研究科委員会等を介して把握されている。教育研究分野レベル及び個人レベルのニーズも把握できるように配慮している。

大学院生のニーズは、アンケート調査（資料 11-1-3-1）や面談を通して把握している。学習については、教育委員会と教務課がニーズ（課題）を把握している。指導教員を含む全教員は、院生（修了生を含む。）ならびに保護者（農学部後援会会員）のニーズ把握に努めている。

学外者からのニーズは、修了生の就職先企業、地元佐賀県関係、外部評価委員を通して把握している（資料 11-1-3-2）。外部評価委員会は、多様な分野（九州大学農学部長、報道関係者、佐賀県生産振興部、佐賀県産業関係者、佐賀大学農学部同窓会）からの委員で構成し、農学研究科の管理運営についての意見も求めている（資料 11-1-3-3）。

農学研究科教職員、院生、学外者のニーズは、農学研究科あるいは各専攻で検討し、管理運営に活かしている。

（分析結果とその根拠理由）

農学研究科内外のニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映されている。

資料 11-1-3-1 平成 19 年度学生対象アンケート報告書
資料 11-1-3-2 平成 17 年度企業アンケート調査報告書
資料 11-1-3-3 佐賀大学農学部－自己点検・評価報告書－ [平成 16, 17 年度], p17～20

観点 11-2-①： 管理運営に関する方針が明確に定められ、その方針に基づき、学内の諸規定が整備されるとともに、管理運営に関わる委員や役員の選考、採用に関する規定や方針、及び各構成員の責務と権限が文書として明確に示されているか。

#### 農学研究科 11-2-①

(観点に係る状況)

農学部の管理運営を含む重要事項について検討するための組織である学部運営会議（学部長（研究科長を兼務）、副学部長、学科長、副学科長の7人で組織）、農学部予算委員会、農学部基本計画委員会、農学部人事委員会、農学部評価委員会、農学部施設委員会、農学部安全衛生委員会、フィールドセンター運営委員会は、農学研究科の管理運営に関わる事項についても審議している。農学部の管理運営に関する諸規程等には、制定目的、職務、委員会構成などが明記されている。農学研究科の管理運営に関する方針は学部の方針を準用している（資料11-2-1-1）。

農学研究科の運営に関するすべての重要事項について、農学研究科長を議長とする研究科委員会で審議決定し、研究科の運営を行っている（資料 11-2-1-2）。研究科委員会の審議を実質化させ、円滑な運営を行うために、学部運営会議、専攻会議及び各種委員会等が設けられている。委員会の構成、責務、権限等は委員会規程等に明記されている。

農学研究科の管理運営責任者である農学研究科長は、農学部長が兼務する。農学部長候補者の選考は、佐賀大学農学部長候補者選考規程に定めている。学部長候補者選挙管理委員会の管理の下で実施される学部長候補者の選挙結果に基づいて、教授会で審議し、学部長候補者を学長に推薦する。佐賀大学学部長選考規則に基づいて、当該学部からの推薦を受けて、学長が学部長を選考する。

(分析結果とその根拠理由)

研究科委員会規程に基づいて、研究科委員会が招集され、農学研究科の管理運営について審議決定し、研究科の運営が行われている。管理運営に関わる委員会等の責務、権限、委員選考方法等を明確に定めている。

資料 11-2-1-1 農学部の管理運営に関する主な規則・規程集

資料 11-2-1-2 佐賀大学大学院農学研究科委員会規程

観点11-2-②： 大学の活動状況に関するデータや情報が適切に収集、蓄積されているとともに、教職員が必要に応じて活用できる状況にあるか。

## 農学研究科 11-2-②

(観点に係る状況)

農学部教員には、「教員報告様式」の提出を義務付けている(資料11-2-2-1)。この様式には、教育、研究、社会貢献、組織運営の各領域に関する全学指定項目に加えて、農学部評価委員会で定めた項目についての活動実績が記されている。各教員の活動実績は、各学科長により集約され、学部長の評価を受ける。この様式は、個人評価の他に、部局自己点検・評価や法人評価、認証評価の基礎資料として活用している。農学研究科においても、農学研究科教員の活動実績、研究科の評価については、「教員報告様式」の集計データを活用している。

### 1) 意思決定に必要な情報の収集状況

情報の収集方法は、多岐にわたるが、主な学外情報源としては、文部科学省訪問による情報、全国学部長会議による中央又は他大学情報、文部科学省の広報誌、インターネットによる他大学院情報、訪問や電話・FAXによる他大学院情報、研究科教員による他大学院情報を利用している。

### 2) 教職員に対する公開の状況

得られた情報の伝達は、回覧とメールを利用しているが、重要情報については、その都度、直近の研究科委員会等で研究科長が報告を行っている。また、委員会からの情報は、委員会の開催ごとに研究科構成員に対してメールで内容を配信している。

(分析結果とその根拠理由)

教員報告書により、農学研究科教員の活動状況が収集、蓄積されている。活動状況に関する評価結果は、各教員に通知され、活動状況の分析結果は、部局別評価等に利用されている。

資料 11-2-2-1 平成 19 年度教員報告様式データ閲覧ホームページ

<https://udb.cc.saga-u.ac.jp/staffData/UnivBaseDBBrowse/browse>

観点11-3-①：大学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われており、その結果が大学内及び社会に対して広く公開されているか。

#### 農学研究科 11-3-①

(観点に係る状況)

農学研究科の自己点検・評価は、農学部評価委員会（構成：学部長（研究科長を兼務）、副学部長、佐賀大学評価委員、学科長、附属資源循環フィールド科学教育研究センター長、事務長）が、教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営及び施設の5つの領域について実施している（資料11-3-1-1）。自己点検・評価の結果は、冊子として発行し、公開している（資料11-1-3-3）。また、評価報告書はウェブサイト上でも閲覧することができる（資料11-3-1-2）。

(分析結果とその根拠理由)

法人（大学）が実施する自己点検・評価に加えて、農学部・農学研究科独自の自己点検・評価がなされ、その結果は公表されている。

資料11-3-1-1 農学部評価委員会規程

資料11-1-3-3 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書〔平成16、17年度〕

資料11-3-1-2 大学評価について（佐賀大学ホームページ）

<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>

観点11-3-②： 自己点検・評価の結果について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による検証が実施されているか。

#### 農学研究科 11-3-②

（観点に係る状況）

農学研究科の自己点検・評価は、農学部評価委員会が実施し、2年に一度、外部評価委員による検証を受けている。5つの領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営、施設）について実施された平成16・17年度の自己点検・評価については、外部評価委員5名（九州大学農学部長、佐賀県生産振興部長、佐賀大学農学部同窓会長、佐賀新聞社取締役報道局長、佐賀県経済調査会専務理事）による検証結果を、平成18年11月に得た。自己点検・評価と外部評価の結果は冊子として取りまとめられ、公表された（資料11-1-3-3、11-3-1-2）。冊子は、研究科改善に資するため農学研究科教員と関係教職員へ配布された。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価した結果についての学外者による検証は実施されている。

資料11-1-3-3 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書〔平成16、17年度〕 資料11-3-1-2 大学評価について（佐賀大学ホームページ） <a href="http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm">http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm</a>
---

観点 11-3-③： 評価結果がフィードバックされ、管理運営の改善のための取組が行われているか。

**農学研究科 11-3-③**

(観点に係る状況)

評価の結果明らかになった問題点は、専攻会議、大学院教育委員会小委員会、学部運営会議等で検討するとともに、改善が必要な事項を教員へ周知し、教育の質の向上のために活用している(資料 11-1-3-3)。教育の質の向上・改善を図るために必要な抜本的な事項については、基本計画委員会で、平成 22 年度大学院改組に向けて検討がなされている(資料 11-3-3-1)。

(分析結果とその根拠理由)

評価結果のフィードバック・システムが整備され、管理運営の改善に活用されている。

資料 11-1-3-3 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書 [平成 16, 17 年度]

資料 11-3-3-1 基本計画委員会議事録 (平成 19 年度)

観点11-3-④： 大学における教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報をわかりやすく社会に発信しているか。

#### 農学研究科 11-3-④

(観点に係る状況)

大学(法人)として行う全学的な教育研究活動に関する情報発信の中で、農学部・農学研究科の活動の要点を報告している。また、農学部・農学研究科の活動に関する詳細を記した冊子を発行し、高等学校など関係機関に配布している(資料11-3-4-1)。教育研究活動の状況は、農学部のホームページに掲載し、広く社会に向けて発信している(資料11-3-4-2)。農学部・農学研究科として実施しているプロジェクト型研究の成果は、同窓会と共同して、公開シンポジウムを毎年開催し、平易に紹介している(資料11-3-4-3)。

(分析結果とその根拠理由)

教育研究の状況と研究成果は、社会(学外者)へわかりやすく発信されている。

資料11-3-4-1 農学部概要(平成18,19年度)

資料11-3-4-2 農学部ホームページ

<http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html>

資料11-3-4-3 学長経費(中期計画実行経費)事業成果報告書(平成18,19年度)